

Enuma Elish - The Babylonian Epic of Creation World History Encyclopedia HP

<https://www.worldhistory.org/article/225/enuma-elish---the-babylonian-epic-of-creation---fu/>

作品について

「エヌマ・エリシュ」（『創造の七つの石版』として知られる）はバビロニアの創造神話で、そのタイトルは冒頭の「高きにありて」に由来します。この神話は、偉大なる神マルドゥク **Marduk** が混沌の力に勝利し、世界の創造において秩序を確立したという物語です。

アシュール、キシュ、ニネヴェのアシュルバニパルの図書館、スルタンテペ、その他の発掘現場から発見されたこの神話を記した石版（エヌマ・エリスとして知られる）は、すべて紀元前 1200 年頃のもです。ただ、これらの奥付では、マルドゥク神をバビロンの守護神に祭り上げたバビロンのハムラビ王（前 1792～前 1750 年）の治世のはるか以前に書かれた、もっと古い神話の写しであることを示しています。マルドゥク神を勝者とする現在の形の詩は、さらに古いシュメールのものを改訂追補したものと考えられています。

マルドゥクは、ティアマト **Tiamat** に対抗する戦いにおける若い神々の勝者であり、バビロニア起源ですが、シュメールのエア **Ea**、エンキ **Enki**、エンリル **Enlil** が物語の原典では主役であったと考えられています。アシュールで発見された版では、アスール神 **Assur** が主役であり、それがメソポタミアの都市の慣習でした。各都市の神は常に最高で最も強力と考えられていました。バビロンの神マルドゥクが、物語にあって唯一の際立った姿であるのは、発見された写本のほとんどがバビロニアの書記によるものであるためです。それでも、バビロニア版『エヌマ・エリシュ』では、人間を創造したエアが重要な役割を果たしています。

物語の要約

世界最古の物語のひとつであるこの物語は、神々の誕生、宇宙と人間の創造にまつわるものです。始原は、分かたれていない水のみがあり混沌として渦巻いていました。この渦から、水は甘美で新鮮な水（アプス神 **Apsu** として知られる；淡水）と、塩分のある厳しい水（女神ティアマト **Tiamat** として知られる；海水）に分かたれました。分かたれた二つの存在が交わることで若い神々が誕生しました。

ところで、この若い神々は非常にうるさく、夜にはアプスの眠りを妨げ、昼には仕事の邪魔をしました。助言者ムムー **Mummu** の助言により、アプスは若い神々を殺そうと決めました。彼らの計画を聞いたティアマトは、長男のエンキ（時にはエア）に警告します、エンキはアプスを眠らせ、殺します。エンキはアプスの亡骸で自分の住処を造ります。

ティアマトは、かつては若い神々の支持者でしたが、彼等が彼女の伴侶を殺したことに激怒しました。彼女はクィング神 **Quingu** に相談しますと、若い神々に戦を仕掛けるよう助言します。ティアマトはクィングに、「運命の石板」を褒美として与えます、それは神の支配を正当化し、運命を支配するもので、彼はそれを胸当てとして誇らしげに着用します。クィングを擁護者として、ティアマトは混沌の力を召喚し、11 の恐ろしい怪物を作り出し、彼女の子供たちを滅ぼそうとします。

エア、エンキ、そして若い神々はティアマトと戦いますが成果が無く、その中からティアマトを倒すと誓う勝者のマルドゥクが現れます。マルドゥクはクィングを倒し、ティアマトを矢で射殺し、その矢はティアマトを二つに裂きます；彼女の目からチグリスとユーフラテスの水が流れます。ティアマトの死体からマルドゥクは天空と地表を創ります。神々に様々な職務を任命し、ティアマトの 11 の怪物を戦利品として（他の神々から多くの賞賛に）自分の足に縛り付け、後にその像を自分の新しい本拠に取り付けます。クィングから「運命の石版」を取り上げ、彼の統治を正当とします。

神々が彼の偉大な勝利と創造の技を賞賛し終えた後、マルドゥクはエア神 **Ea**（知恵の神）と相談し、ティアマトに戦争をするよう勧めた神々のうち、どの遺骨から人間を創り出すかを決めます。クィングが有罪とされ殺され、その血からエアは、ルル **Lullu**、最初の人間を創り、湾岸における秩序を維持し混沌を抑えるという永遠の仕事において神々を助けせしめることになります。

詩の表現によれば、「エアは人間を創造し、その人間に神々の奉仕を課し、神々を自由にした」（タブレット VI.33-34）。これに続いて、マルドゥクは「冥界の組織を整え」、神々をそれぞれの定位置に配した（タブレット VI.43-46）とあります。詩はタブレット VII で、マルドゥクの功績に対する長い賛美で終わっています。

碑文 I

バビロニアの神話では、世界の始まりには、天も地もなく、淡水（男性形アプス **Apsû** 𒀭𒂍𒅗）と海水（女性形ティアマト **Tia-mat** 𒀭𒂍𒅗）があるのみでした。淡水と海水が混じり合うことで、草がはえ、芦の原ができ、まだ神もなかった。

神々は淡水と海水が混じり合うことで、天となる男性形ラーム **Lah(mu)** 𒀭𒂍𒅗 と地となる女性形ラーアム **Lah(amu)** 𒀭𒂍𒅗 が現れた。彼等により、より優れた男性形アンシャル **Anšar** 𒀭𒂍𒅗 と女性形キシアル **Kišar** 𒀭𒂍𒅗 が創られた。

その子ヌ **Anu** 𒀭𒂍𒅗 が父祖と競うようになった。アンシャル **Anšar** 𒀭𒂍𒅗 と同等の力を有した。ヌはヌディンムド **Nudimmud** 𒀭𒂍𒅗（創造者）を生み、彼と同等とし、ヌディンムドはアンシャルより強大となった。ヌディンムド **Nudimmud** 𒀭𒂍𒅗 はエンキ **Enki** 𒀭𒂍𒅗 とみされ、アッカド語ではエア **Ea** 𒀭𒂍𒅗 とされる。

どういふことか、兄弟の神々が集まり騒ぎ、ティアマトを悩ました。アプスは助言者のムンム **Mummu** 𒀭𒂍𒅗（知恵、生命力を表す）を連れてティアマトを訪れ、安寧を保つために彼等を討ち滅ぼそうと語りかけると、ティアマトは自分達で生んだ子達を殺そうとしたアプスに憤った。ムンムはアプスに同意し、その決意は子達の耳にも入った。

エア **Ea** 𒀭𒂍𒅗（**Nudimmud=Enki**）は、アプスとムンムの計画を察知し、呪文を唱え、眠りを水中に溶かし込むと、アプスは深い眠りに陥った。ムンムはあっけにとられた。エアはアプスのオーラを自分に移し、アプスを殺し、ムンムを拘束し、そこにエアの本拠を置いた。

エアと妻の **Damkina** 𒀭𒂍𒅗 が君臨し、その部屋が運命を司り、最高の賢者、神と確信した。その中にマルドゥク **Marduk** 𒀭𒂍𒅗（父；エア、母；ダムキア）が生まれた。四つ耳、四つ目（全て聞き全て見通


す)、言葉は稲妻のごとき神性であり、全てに抜きん出ていた。マリの太陽神 **Mari** (都市名) **utu** (太陽神)、神々のオーラに纏われ、あらゆる恐怖を備え、アヌの創る四つの風を司った。

マルドゥクは突如その風で波動を起こしティアマトを困惑させた (海水を揺さぶった)。ティアマトはかき混ぜられ日夜狂乱状態となった。神々も安息でなく、風を止めるために、悪心を抱いた。神々は、ティアマトがアプスとムンムを見殺しにしたことを責め、戦い、仇討ちすることを求めた。

ティアマトは彼等と策し、悪魔 **demons** と化し、黄泉の母フブル **Hubur** に巨大な蛇どもを生み出させた。鋭い歯、毒の血液、無慈悲な恐怖をオーラで被い神にみせかけた。実際は、ヒドラ、竜、どう猛な怪獣、人にも犬にも悪魔にも魚にも牛にも変化する、11 種類で主宰を立てた。

ティアマトはキング **Qingu** を神々の主宰、軍事の最高司令官とし、魔力を授けた。彼を伴侶とし、アヌナキ **Anunnaki** (運命を掌る神界) 全体に周知し、運命のタブレットを与え、一旦口にした命令を断固として実行することを諭し、**Anuship** (神威) を宿らせ、キングに神々の運命を握らしめ、その言葉で火神を従え、鎮圧するに十分な毒を蓄えせしめんとした。

TABLET I	
<p>1 When the heavens above did not exist, 2 And earth beneath had not come into being — 3 There was Apsû, the first in order, their begetter, 4 And demiurge Tia-mat, who gave birth to them all; 5 They had mingled their waters together 6 Before meadow-land had coalesced and reed-bed was to be found — 7 When not one of the gods had been formed 8 Or had come into being, when no destinies had been decreed, 9 The gods were created within them: 10 Lah(mu and Lah(amu were formed and came into being. 11 While they grew and increased in stature 12 Anšar and Kišar, who excelled them, were created. 13 They prolonged their days, they multiplied their years. 14 Anu, their son, could rival his fathers. 15 Anu, the son, equalled Anšar, 16 And Anu begat Nudimmud, his own equal. 17 Nudimmud was the champion among his fathers: 18 Profoundly discerning, wise, of robust strength; 19 Very much stronger than his father's begetter, Anšar 20 He had no rival among the gods, his brothers.</p>	<p>上に天がまだなく、下に地がない時に、太初にすべてを生む父なるアプス Apsû がおり、万象を産み出す母なるティアマト Tia-mat がおり (Apsû は河川などの陸上の森羅万象を産み育てる水、Tia-mat は海の森羅万象を産み育てる水)、Apsû と Tia-mat がお互いの水を混ぜ合わせ終えた。草が生え、葦の原となる前のこと。神々などの神も形もなく、現われてもおらず、如何なる運命も下されていなかった。</p> <p>神々は、(その水) から産み出された。ラーム Lah(mu とラーアム Lah(amu が形作られ現われた。Lah(mu と Lah(amu は天と地を形成するものを含む男性形と女性形の象徴。Lah(mu と Lah(amu が育ち十分に成長すると、彼等より優れたアンシャル Anšar とキシヤル Kišar が造られた。Anšar と Kišar が日々を経、年月を重ね、その子のアヌ Anu が父祖達と競うようになった。その子の Anu は Anšar と互角となった。Anu はヌディンムド Nudimmud (創造者) を生み自分と等しいものとし、Nudimmud は父祖の中で最強であった。深く洞察し、賢明で屈強であり、Anu を生んだ Anšar よりはるかに強かった。Nudimmud はエンキ Enki ともされアッカド語ではエア Ea とさ</p>

<p>21 The divine brothers came together, 22 Their clamour got loud, throwing Tia-mat into a turmoil. 23 They jarred the nerves of Tia-mat, 24 And by their dancing they spread alarm in Anduruna. 25 Apsû did not diminish their clamour, 26 And Tia-mat was silent when confronted with them. 27 Their conduct was displeasing to her, 28 Yet though their behaviour was not good, she wished to spare them. 29 Thereupon Apsû, the begetter of the great gods, 30 Called Mummu, his vizier, and addressed him, 31 "Vizier Mummu, who gratifies my pleasure, 32 Come, let us go to Tia-mat!" 33 They went and sat, facing Tia-mat, 34 As they conferred about the gods, their sons. 35 Apsû opened his mouth 36 And addressed Tia-mat 37 "Their behaviour has become displeasing to me 38 And I cannot rest in the day-time or sleep at night. 39 I will destroy and break up their way of life 40 That silence may reign and we may sleep." 41 When Tia-mat heard this 42 She raged and cried out to her spouse, 43 She cried in distress, fuming within herself, 44 She grieved over the (plotted) evil, 45 "How can we destroy what we have given birth to? 46 Though their behaviour causes distress, let us tighten discipline graciously." 47 Mummu spoke up with counsel for Apsû— 48 (As from) a rebellious vizier was the counsel of his Mummu— 49 "Destroy, my father, that lawless way of life, 50 That you may rest in the day-time and sleep by night!" 51 Apsû was pleased with him, his face beamed 52 Because he had plotted evil against the gods, his</p>	<p>れる。神々、その兄弟達の中にも彼に匹敵するものはなかった。兄弟である神達も集い来り、喧噪が過ぎ、Tia-mat を困惑させた。Tia-mat の神経を揺さぶり、 彼等の舞により、警戒はアンドルナ Anduruna（天の上、神々の故郷？）にも及んだ。 Apsû は喧噪を抑さえようとせず、 Tia-mat は黙ってそれらに向き合うことになった。 彼等の行いは彼女にとって不快であり、善くないものであったが、 彼女はおおめにみておこうと思った。 そこで、偉大な神々の男親、Apsû はその助言者ともいうべきムムム Mummu （知恵、生命力を表す）を呼び、呼びかけた、「助言者 Mummu、喜ばしき者よ、来たれ、共に Tia-mat のところへ往こう」と。彼等は出かけ、Tia-mat に向い座した。神々やその子等に語りかけた。 Apsû が口を開き、 Tia-mat にこう語りかけた。 「彼等の行為は、私にも不快なものとなってきた。日中には落ち着かなく、夜には眠れない。私は彼等の生き方を打ち壊し、やめさせる。静けさを取り戻し眠れるようにする」と。 Tia-mat はこれを聞くと、 逆上し、配偶者の Apsû に抗議した。 彼女は苦しげ叫んだ、もんもんとして。 彼女はその悪しき（策謀）を深く悲しんだ。 「私達が産み出したものをどうして打ち壊すことができません。その行為が難儀とはいえ、一緒に根気よく規律を守らせばいい」と。 Mummu は、Apsû を弁護して言い放った。 おそらくは波乱を起そうとする助言者、Mummu の弁護であつたろう。 「打ち壊しましょう、我が父よ。 あの無法の生き方を。日中に落ち着き、夜に眠れるように」と。 Apsû は満足し、その顔が輝いた。なんとすれば、彼は、神々やその子等に悪しきを策していたからであ</p>
---	--

sons.	った。
53 Mummu put his arms around Apsû's neck,	Mummu は腕を Apsû の首にまわし、膝の上に座り、
54 He sat on his knees kissing him.	キスをした。
55 What they plotted in their gathering	彼等がその会合で策したことは、
56 Was reported to the gods, their sons.	神々やその子等に伝えられ、
57 The gods heard it and were frantic.	神々はそれを聞くと、取り乱してしまった。
58 They were overcome with silence and sat quietly.	沈黙にとらわれ、じっと座り込んだ。
59 Ea, who excels in knowledge, the skilled and learned,	Ea *𒂗𒅗𒅗 (Nudimmud=Enki のこと) は知恵に優れ、熟練しており、習熟していた。
60 Ea, who knows everything, perceived their tricks.	Ea はすべてに通じ、彼等の手口を見抜いていた。
61 He fashioned it and made it to be all-embracing,	彼はそれに馴染み、何にでも使えるようにした。
62 He executed it skilfully as supreme—his pure incantation.	巧みに行った。
63 He recited it and set it on the waters,	最上で純粋な呪文のごとく、
64 He poured sleep upon him as he was slumbering deeply.	彼は、呪文を唱え、水に施した。
65 He put Apsû to slumber as he poured out sleep,	彼が、眠りを注ぎ込むと、深いまどろみに落ちていった。
66 And Mummu, the counsellor, was breathless with agitation.	彼が眠りをどんどん注ぎこむと Apsû はまどろみに落ちていった。助言者の Mummu は、あまりのことに息がつけなくなった。
67 He split (Apsû's) sinews, ripped off his crown,	彼は (Apsû の) 腱 (力の源泉) を裂き、王冠を剥ぎ取り、そのオーラを取り去り、自身に就けた。
68 Carried away his aura and put it on himself.	彼は Apsû を束ねて殺してしまった。
69 He bound Apsû and killed him;	Mummu、彼は Mummu を監禁し手荒く扱った。
70 Mummu he confined and handled roughly.	彼は Apsû の処に居を構えた。
71 He set his dwelling upon Apsû,	Mummu を捕らえ、鼻にロープをかけ、ロープを手
72 And laid hold on Mummu, keeping the nose-rope in his hand.	にしていた。
73 After Ea had bound and slain his enemies,	Ea は、敵を拘束し殺し終わると、
74 Had achieved victory over his foes,	反対する者達に勝利を収めていた。
75 He rested quietly in his chamber,	彼は寝所で静かに休息をした。
76 He called it Apsû, whose shrines he appointed.	彼はそこを Apsû の神殿に指定し
77 Then he founded his living-quarters within it,	その中を彼の生活の本拠にした。
78 And Ea and Damkina, his wife, sat in splendour.	そして Ea とその妻の Damkina *𒂗𒅗𒅗𒅗が華麗に座した。運命の部屋、アーキタイプ (完全で典型的な原型) の部屋。
79 In the chamber of the destinies, the room of the archetypes,	賢者の中の賢者、神々の中の聖者である、
80 The wisest of the wise, the sage of the gods, Be-I was conceived.	Be-I は確信した。
81 In Apsû was Marduk born,	Apsû の中に、Marduk *𒂗𒅗𒅗𒅗が生れた。
82 In pure Apsû was Marduk born.	純粋な Apsû の中に、Marduk が生れた。

83 Ea his father begat him, 84 Damkina his mother bore him. 85 He sucked the breasts of goddesses, 86 A nurse reared him and filled him with terror. 87 His figure was well developed, the glance of his eyes was dazzling, 88 His growth was manly, he was mighty from the beginning. 89 Anu, his father's begetter, saw him, 90 He exulted and smiled; his heart filled with joy. 91 Anu rendered him perfect: his divinity was remarkable, 92 And he became very lofty, excelling them in his attributes. 93 His members were incomprehensibly wonderful, 94 Incapable of being grasped with the mind, hard even to look on. 95 Four were his eyes, four his ears, 96 Flame shot forth as he moved his lips. 97 His four ears grew large, 98 And his eyes likewise took in everything. 99 His figure was lofty and superior in comparison with the gods, 100 His limbs were surpassing, his nature was superior. 101 'Mari-utu, Mari-utu, 102 The Son, the Sun-god, the Sun-god of the gods.' 103 He was clothed with the aura of the Ten Gods, so exalted was his strength, 104 The Fifty Dreads were loaded upon him. 105 Anu formed and gave birth to the four winds, 106 He delivered them to him, "My son, let them whirl!" 107 He formed dust and set a hurricane to drive it, 108 He made a wave to bring consternation on Tia-mat. 109 Tia-mat was confounded; day and night she was frantic. 110 The gods took no rest, they	Ea、彼の父が彼をもたらし Damkina、彼の母が彼を産んだ。 彼（Marduk）は女神の乳房を吸い、 乳母が彼を養育し、彼を恐怖に満たした 彼の姿がよく整い、 その眼差しはまぶしかった。 彼の成長は男らしく 初めから力強かった。 彼の父の父 Anu が彼を見た Anu は歓喜し、笑みを浮かべ、心が喜びに満たされた。Anu は彼を完璧とし、その神性は際立っていた。 彼は非常に気高く、それがかれの特性で抜きん出ている。 彼の仲間は理解しがたく素晴らしく、 その心で捉えることが出来ず、目にとめることも難しかった。 彼の目は四つ、耳が四つ 唇を動かすと、炎が吹き出された 彼の四つの耳は大きく育ち、 その目も同じようにすべてを捉えた。 彼の姿は気高く、神々に比べても抜きん出ている。 彼の手足は卓越しており、 彼の性質も優れていた。 Mari （都市名） utu ☼☼（太陽神）, Mari-utu, 息子、太陽神、神々の太陽神（正義と真理の神） 彼は十の神々のオーラに纏われ、 彼の強さは極めて高貴ですらあった。 五十の恐怖も備わっていた。 Anu は四種の風を形にして生み出した。 Anu は utu に渡し、「息子よ。渦巻かせよ」と彼は塵を起し、ハリケーンでそれを動かせた 彼は波動を起し、Tia-mat.を狼狽させた（Tia-mat は海水状態であり風浪で揺さぶられた） Tia-mat は上や下やごちゃ混ぜにされ、日夜半狂乱に追い込まれた。 神々は休む暇も無く、彼等は……
---	--

<p>111 In their minds they plotted evil, 112 And addressed their mother Tia-mat, 113 "When Apsû, your spouse, was killed, 114 You did not go at his side, but sat quietly. 115 The four dreadful winds have been fashioned 116 To throw you into confusion, and we cannot sleep. 117 You gave no thought to Apsû, your spouse, 113 Nor to Mummu, who is a prisoner. Now you sit alone. 119 Henceforth you will be in frantic consternation! 120 And as for us, who cannot rest, you do not love us! 121 Consider our burden, our eyes are hollow. 122 Break the immovable yoke that we may sleep. 123 Make battle, avenge them! 124 [. . .] reduce to nothingness! 125 Tia-mat heard, the speech pleased her, 126 (She said,) "Let us make demons, [as you] have advised." 127 The gods assembled within her. 128 They conceived [evil] against the gods their begetters. 129 They and took the side of Tia-mat, 130 Fiercely plotting, unresting by night and day, 131 Lusting for battle, raging, storming, 132 They set up a host to bring about conflict. 133 Mother H(ubur, who forms everything, 134 Supplied irresistible weapons, and gave birth to giant serpents. 135 They had sharp teeth, they were merciless 136 With poison instead of blood she filled their bodies. 137 She clothed the fearful monsters with dread, 138 She loaded them with an aura and made them godlike. 139 (She said,) "Let their onlooker feebly perish, 140 May they constantly leap forward and never retire". 141 She created the Hydra, the Dragon, the Hairy Hero 142 The Great Demon, the Savage Dog, and the</p>	<p>心の中で悪事を抱いた 彼等の母である Tia-mat.にこう云った 「Apsû、あなたの連れ合い、が殺された時、 あなたは彼のそばに往かず、じっと座っていた。 四つの恐ろしい風が創り出され、 あなたを困惑に陥れ、我々は眠れなくなり、 あなたは Apsû、あなたの連れ合いを考えず、捕らわ れている Mummu のことも考えず、 今も一人で座っている。 これからも、あなたは狂乱、仰天のまま。 我々も、休むことが出来ず、あなたは我々を愛せな い。我々の労苦を考えてくれ、目がうつろになる。 動かぬくびきを解き、眠れるように 戦え、仇を討て！ ・・・すべてなくなるように Tia-mat 聞いて、その言葉に喜んだ （彼女が言った）「悪魔になりましょう、助言いただ いたように」 神々は彼女のもとに集った。 彼等は生みの親である神々に対して「悪」をたくら んだ。 彼等は・・・Tia-mat の側につき 猛烈に策を練った、昼夜をとわず 戦いに飢え、猛烈に、荒れ狂い、 彼等はホストを立ち挙げ、紛争を引き起した （死者の国の）母なる Hubur 𒄩𒅗、すべてを形造る 抗いがたい武器をもたらし、 巨大な蛇どもを産み出した。 それらは鋭い歯をもち、無慈悲であった その身体には血の代わりに毒で満たされていた。 Hubur は恐ろしい怪物に恐怖をまとい オーラで覆ってそれらを神のように みせかけた。 （言った）「それらを傍観する者を力なく滅ぼしめ、 それらは常に飛びかかるように前に進み、決して後 退せぬように」 彼女はヒドラ、竜、身の毛もよだつ英雄を造った 偉大なる悪魔、どう猛な犬、</p>
---	--

<p>Scorpion-man, 143 Fierce demons, the Fish-man, and the Bull-man, 144 Carriers of merciless weapons, fearless in the face of battle. 145 Her commands were tremendous, not to be resisted. 146 Altogether she made eleven of that kind. 147 Among the gods, her sons, whom she constituted her host, 148 She exalted Qingu, and magnified him among them. 149 The leadership of the army, the direction of the host, 150 The bearing of weapons, campaigning, the mobilization of conflict, 151 The chief executive power of battle, supreme command, 152 She entrusted to him and set him on a throne, 153 "I have cast the spell for you and exalted you in the host of the gods, 154 I have delivered to you the rule of all the gods. 155 You are indeed exalted, my spouse, you are renowned, 156 Let your commands prevail over all the Anunnaki." 157 She gave him the Tablet of Destinies and fastened it to his breast, 158 (Saying) "Your order may not be changed; let the utterance of your mouth be firm." 159 After Qingu was elevated and had acquired the power of Anuship, 160 He decreed the destinies for the gods, her sons: 161 "May the utterance of your mouths subdue the fire-god, 162 May your poison by its accumulation put down aggression."</p>	<p>サソリ人間 どう猛な鬼、魚人間、牛人間 情け容赦ない武器を携え、戦いにあたり恐れを知らない 彼女の命令はすさまじく 逆らうことはできない 全部で彼女は 11 種のものを造った 彼女の子達、神々の中に、 ホスト（主宰）を立てた。 彼女は Qingu *𐎧𐎺𐎠𐎶を挙げ、 彼をわけても強大にした 軍事のリーダーシップ、 ホストの動向指揮 武器の持参、作戦、 戦闘への動員 戦いの主たる執政官 最高司令官 彼女は彼に託し、彼を王座に据えた 「私は、お前に魔力を授け、 神々のホストに抜きん出る者とした。 お前にすべての神々を支配させよう 我が伴侶、お前は実に抜きん出ており その名も高い。お前の命令を Anunnaki.（運命を掌る神界）すべてに轟かせよう」 彼女は彼に運命のタブレットを与え、 彼の胸にそれを結んだ。 「命じたことは変えてならぬ、 口にするは断固たれ」 Qingu が高められると Anuship *𐎠𐎺𐎠𐎶（神威）が宿った 彼が神々、彼女の子達、の運命を握った 「お前が口にすることで火神を 従え、 お前が毒をため込み 攻撃を鎮圧できますように」</p>
---	---

Be-I は主と訳されている。Apsû と Tia-mat 以前から存在するのか、彼等から生れた神が該当するのか不明。

碑文Ⅱ

ティアマトは生み出した者を集め、アプスの仇をうつため、子孫の神々との戦を策した。エアはそれを察知し、熟考してアンシャルにティアマトの企み、神々が彼女に従い、司令官を立て、日夜闘争心をたかめ、フブルに抗しがたい巨大な蛇を創らせたと伝えた。

アンシャルはそれを聞くと深刻となり、心騒ぎ、心揺らぎ、エアがアプスを殺した責任を問うた。ヌディンムドであるエアは落ち着いて応えた。我が父、運命を定め、創出も破壊も司る父よ、私がアプスを殺さなければ今どうなっていたかを考えてほしい、と。

アンシャルはそれを聞くとうれしくなった。お前のしたことは神にふさわしい。比類無き一撃であった。ティアマトをお前の呪文で鎮めるのだ。

エアがティアマトと対面すると、その強大な恐ろしさに引き返してアンシャルに自分の呪文が通じない、誰か代わりの者を差し向けるよう訴えた。

アンシャルはアヌにティアマトと対決することを求め、アヌはエア同様にティアマトの強大さに立ち向かうことができず、アンシャルのもとに引き返し、代わりの者を差し向けるよう訴えた。

アンシャルは黙り込んだ。イギギとアヌンナキ（天界の下級上級の神々）全てを集めたが、すべて口を閉じ、誰もティアマトと対抗するものはなかった。

戦士マルドゥクが戦いを挑んだ。エアはマルドゥクを個室に誘い、アンシャルに助言した。恭しくも毅然として、目には喜びを浮かべて、近づくようにと。そのようにするとアンシャルは満足してマルドゥクを迎えその恐れを解いた。

マルドゥクはアンシャルの望みを叶える、ティアマトを相手にし、アンシャルがティアマトの首根っこを押さえることになるでしょうと述べた。マルドゥクは、アンシャルに自分が運命を司る最高司令官となること、その命令が無効にされることも変更されることもないことを求めた。

TABLET II	
1 Tia-mat gathered together her creation 2 And organised battle against the gods, her offspring. 3 Henceforth Tia-mat plotted evil because of Apsû 4 It became known to Ea that she had arranged the conflict. 5 Ea heard this matter, 6 He lapsed into silence in his chamber and sat motionless. 7 After he had reflected and his anger had subsided 8 He directed his steps to Anšar his father. 9 He entered the presence of the father of his begetter, Anšar, 10 And related to him all of Tia-mat's plotting. 11 "My father, Tia-mat our mother has conceived a hatred for us,	Tia-mat は産みだした者を集め その子孫である神々に対する戦いを計画した。 それより Tia-mat は Apsû のために悪事を策した。 それは、Ea が知るようになった。 彼女が戦いを準備していることを Ea はこのことを聞いた。 彼は部屋で沈黙し じっと座ったままだった。 振り返って考え、怒りがしずまると 彼は父の Anšar の所に向かった 彼が父である Anšar の前に現われ Tia-mat の策謀について伝えた 「父よ、我々の母の Tia-mat が 我々に恨みを抱いています

12 She has established a host in her savage fury.	彼女は残酷な激怒にかられホストを造り
13 All the gods have turned to her,	すべての神々が彼女に付き
14 Even those you (pl.) begat also take her side	あなたの造った者達さえも彼女に付いています
15 They and took the side of Tia-mat,	彼等…Tia-mat の側にいます
16 Fiercely plotting, unresting by night and day,	すざまじく策謀し、昼夜も休み無く
17 Lusting for battle, raging, storming,	戦いに飢え、猛威をふるい、荒れまくる
18 They set up a host to bring about conflict.	ホストを立ち上げ闘争をもたらします
19 Mother H(ubur, who forms everything,	母なる Hubur、全てを形づくり
20 Supplied irresistible weapons, and gave birth to	抗い難い武器をもたらし、
giant serpents.	巨大な蛇を産みました
21 They had sharp teeth, they were merciless.	鋭い歯を持ち、情け容赦ありません
22 With poison instead of blood she filled their bodies.	血の代わりに毒を身体に満たしている
23 She clothed the fearful monsters with dread,	恐ろしい怪物に恐怖をまとい
24 She loaded them with an aura and made them	オーラで覆ってそれらを神のように
godlike.	みせかけた。
25 (She said,) "Let their onlooker feebly perish,	(言った)「それらを傍観する者を力なく滅ぼしめ、
26 May they constantly leap forward and never retire."	それらは常に飛びかかるように前に進み、決して後
27 She created the Hydra, the Dragon, the Hairy Hero,	退せぬように」。彼女はヒドラ、竜、身の毛もよだつ
28 The Great Demon, the Savage Dog, and the	英雄を造った、偉大なる悪魔、どう猛な犬、サソリ
Scorpion-man,	人間
29 Fierce demons, the Fish-man, and the Bull-man,	どう猛な鬼、魚人間、牛人間
30 Carriers of merciless weapons, fearless in the face	情け容赦ない武器を携え、戦いにあたり恐れを知ら
of battle.	ない
31 Her commands were tremendous, not to be	彼女の命令はすざまじく
resisted.	逆らうことはできない
32 Altogether she made eleven of that kind.	全部で彼女は 11 種のもので造った
33 Among the gods, her sons, whom she constituted	彼女の子達、神々の中に、
her host,	ホストを構成した
34 She exalted Qingu and magnified him among them.	彼女は Qingu * 𒂍 𒀭 を挙げ、彼をわけても強大
35 The leadership of the army, the direction of the host,	にした。軍事のリーダーシップ、ホストの指揮
36 The bearing of weapons, campaigning, the	武器の持参、作戦、
mobilization of conflict,	騒乱の醸成
37 The chief executive power of battle supreme	戦いの主たる執政官
command,	最高司令官
38 She entrusted to him and set him on a throne.	彼女は彼に託し、彼を王座に据えた
39 "I have cast the spell for you and exalted you in the	「私は、お前に魔力を授け、
host of the gods,	神々のホストに抜きん出る者とした。
40 I have delivered to you the rule of all the gods.	お前にすべての神々を支配させよう

41 You are indeed exalted, my spouse, you are renowned,	我が伴侶、お前は実に抜きん出ており その名も高い。お前の命令を Anunnaki. (運命を掌る神界) すべてに轟かせよう」
42 Let your commands prevail over all the Anunnaki."	
43 She gave him the tablet of Destinies and fastened it to his breast,	彼女は彼に運命のタブレットを与え、 彼の胸にそれを結んだ。
44 (Saying) "Your order may not be changed; let the utterance of your mouth be firm."	「命じたことは変えてならぬ、 口にするは断固たれ」
45 After Qingu was elevated and had acquired the power of Anuship	Qingu が高められると Anuship 𐎶𐎵𐎶𐎠𐎶𐎠 (神威) が宿った
46 He decreed the destinies for the gods. her sons:	彼が神々、彼女の子達、の運命を握った
47 "May the utterance of your mouths subdue the fire-god,	「お前が口にすることで火神を 従え、
48 May your poison by its accumulation put down aggression."	お前が毒をため込み 攻撃を鎮圧できますように」
49 Anšar heard; the matter was profoundly.	Anšar は聞くと、深刻となった
50 He cried "Woel!" and bit his lip.	彼はうなり声をあげて唇を噛んだ
51 His heart was in fury, his mind could not be calmed.	彼の心は猛々しく、心を落ち着かせる事が出来ず
52 Over Ea his son his cry was faltering.	Ea、息子、に対しては彼の叫びはためらいがちで
53 "My son, you who provoked the war,	「息子よ、戦いを挑発したのはお前だ
54 Take responsibility for whatever you alone have done!	何であれ、お前一人でやったこと の責任を果たせ
55 You set out and killed Apsû,	お前がはじめて、Apsû, を殺した
56 And as for Tia-mat, whom you made furious, where is her equal?"	お前が憤った Tia-mat のことだが、 彼女に匹敵するものがどこにいますか」
57 The gatherer of counsel, the learned prince,	忠告を集め、学習するプリンス
58 The creator of wisdom, the god Nudimmud	知恵を産み出す、神 Nudimmud
59 With soothing words and calming utterance	なだめるような言葉、落ち着いた口調で
60 Gently answered [his] father Anšar	父なる Anšar に物静かに応えた
61 "My father, deep mind, who decrees destiny,	「我が父、心深く、運命を定める者
62 Who has the power to bring into being and destroy,	産み出す力も滅ぼす力も持つ、
63 Anšar, deep mind, who decrees destiny,	Anšar、心深く、運命を定める
64 Who has the power to bring into being and to destroy,	産み出す力も 滅ぼす力も持つ、
65 I want to say something to you, calm down for me for a moment	いいたいことがある 私のために、しばし、落ち着いて
66 And consider that I performed a helpful deed.	考えて欲しい、私が役立ったことを
67 Before I killed Apsû	私が Apsû を殺す前に
68 Who could have seen the present situation?	誰が今の状況を見ることが出来たでしょう

69 Before I quickly made an end of him	私が素早く彼を終わらせる前に
70 What were the circumstances were I to destroy him?"	どうなっていたことでしょう 彼を滅ぼさなかったら」
71 Anšar heard, the words pleased him.	Anšar は聞いて、その言葉に喜んだ
72 His heart relaxed to speak to Ea,	心が軽くなり Ea に語りかけた
73 "My son, your deeds are fitting for a god,	「我が息子よ、お前のやったことは神にふさわし
74 You are capable of a fierce, unequalled blow . . . [. . .]	い、十分に激しく、比類無き一撃である[. . .]
75 Ea, your deeds are fitting for a god,	Ea、お前のやったことは神にふさわしい
76 You are capable of a fierce, unequalled blow . . . [. . .]	十分に激しく、比類無き一撃である[. . .]
77 Go before Tia-mat and appease her attack,	Tia-mat に向い、彼女の攻撃を鎮めよ
78 . . . [. . .] . . . her fury with [your] incantation."	. . . [. . .] . . . 彼女の憤りを(お前の)呪文で」
79 He heard the speech of Anšar his father,	彼は、父 Anšar の言葉を聞き、
80 He took the road to her, proceeded on the route to her.	彼は彼女に向かい、 そこへの道を進んだ
81 He went, he perceived the tricks of Tia-mat,	彼は行くと、Tia-mat の策略を見抜いた
82 [He stopped], fell silent, and turned back.	(彼は立ち止まり)、黙って、引き返した
83 [He] entered the presence of august Anšar	(彼は) 堂々たる Anšar の前に現われ
84 Penitently addressing him,	悔しそうに云った
85 "[My father], Tia-mat's deeds are too much for me.	「(父よ) Tia-mat のすることは手に負えない
86 I perceived her planning, and [my] incantation was not equal (to it).	彼女のやることを見抜いたが、(私の) 呪文では 太刀打ちできない
87 Her strength is mighty, she is full of dread,	彼女の力は強大で、そら恐ろしい
88 She is altogether very strong, none can go against her.	彼女はあまりにも力強く、誰も 抗うことができない
89 Her very loud cry did not diminish,	彼女の咆吼は鎮まることがない
90 [I became afraid] of her cry and turned back.	その叫びに(恐ろしくなり)引き返した
91 [My father], do not lose hope, send a second person against her.	(父よ) 望みを失わず、 次の者を差し向けよう
92 Though a woman's strength is very great, it is not equal to a man's.	女の強さが偉大であっても 男の強さには匹敵しない
93 Disband her cohorts, break up her plans	彼女の取り巻きを崩し、その策を破る
94 Before she lays her hands on us."	彼女が我々に手をかける前に」
95 Anšar cried out in intense fury,	Anšar はすざまじい怒りで声を荒げ
96 Addressing Anu his son,	息子の Anu に言い放った
97 "Honoured son, hero, warrior,	「誉れ高い息子、英雄で戦士
98 Whose strength is mighty, whose attack is irresistible	その力は強大で、その攻撃には 抵抗することができない
99 Hasten and stand before Tia-mat,	急げ、Tia-mat に立ち向かえ

100 Appease her rage that her heart may relax	彼女の怒りを鎮め、心を解きほぐせ
101 If she does not harken to your words,	もし、彼女がお前の言葉に耳を貸さないなら
102 Address to her words of petition that she may be appeased."	哀願の言葉をかけ その心をなだめよ」
103 He heard the speech of Anšar his father,	彼は Anšar、彼の父、の言葉を聞いた
104 He took the road to her, proceeded on the route to her.	彼女の所へ行き、その道を 進んでゆけと
105 Anu went, he perceived the tricks of Tia-mat,	Anu は行き、Tia-mat の策略を見抜こうとした
106 He stopped, fell silent, and turned back.	彼は止まり、沈黙し、引き返した
107 He entered the presence of Anšar the father who begat him,	彼は Anšar、彼の父、かれを生んだ、 ところに現われ、
108 Penitently addressing him.	悔しそうに伝えた
109 "My father, Tia-mat's [deeds] are too much for me.	「父よ、Tia-mat は手に負えません
110 I perceived her planning, but my [incantation] was not [equal] (to it).	彼女のもくろみはみてとりましたが、私のもの(呪文) では太刀打ちできません
111 Her strength is mighty, she is [full] of dread,	彼女の強さはとてつもなく、恐怖に満ちている
112 She is altogether very strong, no one [can go against her].	完全に強力で 誰も立ち向かうことはできません
113 Her very loud noise does not diminish,	その大音量は減じることなく
114 I became afraid of her cry and turned back.	その叫び声に怖気づいて戻ってきたのです
115 My father, do not lose hope, send another person against her.	父よ、希望を失ってはなりません、別の者を彼女の ところへ送ってください
116 Though a woman's strength is very great, it is not equal to a man's.	女の強さが偉大であっても 男の強さには匹敵しない
117 Disband her cohorts, break up her plans,	彼女の軍団をとり崩し、その計画を破るのです
118 Before she lays her hands on us."	彼女が我々に手をかける前に」
119 Anšar lapsed into silence, staring at the ground,	Anšar は沈黙し、地を見つめて
120 He nodded to Ea, shaking his head.	彼は Ea に頷き、頭を振って
121 The Igigi and all the Anunnaki had assembled,	Igigi 𒂗𒀭𒂗𒀭 (下級の神々) とすべての Anunnaki 𒂗𒀭𒂗𒀭𒂗𒀭 (上級の神々) が集り、口を閉ざして沈黙し
122 They sat in tight-lipped silence.	た。いかな神も..[.]に直面しようとせず
123 No god would go to face . . [. .]	Tia-mat. .[.]に手向かうに出なかった
124 Would go out against Tia-mat [. .]	しかし、Anšar、偉大な神々の父は
125 Yet the lord Anšar, the father of the great gods,	心の内で怒り、だれも召喚
126 Was angry in his heart, and did not summon any one.	しなかった。
127 A mighty son, the avenger of his father,	力強い息子、その父の敵を討つ者
128 He who hastens to war, the warrior Marduk	進んで戦う者、戦士 Marduk
129 Ea summoned (him) to his private chamber	Ea は彼を個室に召喚した

130 To explain to him his plans.	彼にそのプランを説明した
131 "Marduk, give counsel, listen to your father.	「Marduk、忠告する、父のことをよく聞け
132 You are my son, who gives me pleasure,	お前は私の息子、私の喜び
133 Go reverently before Anšar,	Anšar の前では恭しくせよ
134 Speak, take your stand, appease him with your glance."	話すに、毅然として、その眼差しで かれをなだめよ」
135 Be-I rejoiced at his father's words,	Be-I は、父の言葉に喜んだ
136 He drew near and stood in the presence of Anšar.	彼は、近づき、Anšar の前に立った
137 Anšar saw him, his heart filled with satisfaction,	Anšar は彼を見ると、心が満たされた
138 He kissed his lips and removed his fear.	彼は唇にキスし、彼の恐れを解き放った
139 "My [father] do not hold your peace, but speak forth,	「我が（父）よ、黙っていずに はっきりと言ってください
140 I will go and fulfil your desires!	私は行ってあなたの望みを叶えます。
141 [Anšar,] do not hold your peace, but speak forth,	[Anšar,]、黙らず、はっきりと言ってください
142 I will go and fulfil your desires!	私は行ってあなたの望みを叶えます。
143 Which man has drawn up his battle array against you?	誰があなた方に対して戦列を 敷いたのですか？
144 And will Tia-mat, who is a woman, attack you with (her) weapons?	Tia-mat, 女性ですね、彼女の武器で あなた方を襲ったのですか？
145 ["My father], begetter, rejoice and be glad,	[「我が父], 父よ、喜び、お喜び下さい
146 Soon you will tread on the neck of Tia-mat!	まもなく Tia-mat の首を踏みつけることでしょう
147 [Anšar], begetter, rejoice and be glad,	[Anšar,]、父よ、喜ばしく、お喜び下さい
148 Soon you will tread on the neck of Tia-mat!	まもなく Tia-mat の首を踏みつけることでしょう
149 ["Go,] my son, conversant with all knowledge,	[「行け], 息子よ、あらゆる知識に通じる
150 Appease Tia-mat with your pure spell.	お前の純粋な魔力で Tia-mat を鎮めよ
151 Drive the storm chariot without delay,	ぐずぐずせず嵐の戦車を駆けて
152 And with a [. .] which cannot be repelled turn her back."	そして [..]で、撃退させず、彼女に 引き下がらせよ」
153 Be-I rejoiced at his father's words,	Be-I は、父の言葉に喜んだ。
154 With glad heart he addressed his father,	心喜び、父に言った
155 "Lord of the gods, Destiny of the great gods,	「神々の主よ、偉大な神々の運命を定めるもの
156 If I should become your avenger,	もし、私があなたの敵を討つ者となれば
157 If I should bind Tia-mat and preserve you,	もし、私が、Tia-mat を捕らえあなたを守れば
158 Convene an assembly and proclaim for me an exalted destiny.	集会を開き、私を高貴なる運命を定める者と 宣言して下さい。
159 Sit, all of you, in Upšukkinakku with gladness,	全ての者が、Upšukkinakku に喜んで坐して
160 And let me, with my utterance, decree destinies instead of you.	私自身の声で、あなたに代わって私が 運命を定める者であることを宣言させて下さい

161 Whatever I instigate must not be changed, 162 Nor may my command be nullified or altered."	私が進めることは変えられてはならず 私の命令は無効にも変更されることもないと
---	---

碑文 III

アンシャルは助言者のカカをラームとラーアムの所に派遣した。カカは彼等に経緯を説明し、ラームとラーアムが聞くと、すべてのイギギが呻吟した、何故ティアマトがそういう行動にでたかを。彼等をアンシャルの処に集えると、穀物とエールを嚙んでビールを作り、酔うと気が大きくなり、マルドゥクを、運命を司る最高司令官とした。

TABLET III	
1 Anšar opened his mouth	Anšar が口を開いた
2 And addressed Kaka, his vizier,	助言者の Kaka にこう言った
3 "Vizier Kaka, who gratifies my pleasure,	「助言者の Kaka よ、私に喜びを満たしてくれる
4 I will send you to Lah(mu and Lah(amu.	Lah(mu と Lah(amu の所に派遣する
5 You are skilled in making inquiry, learned in address.	あなたは巧みに探り、演説に習熟している
6 Have the gods, my fathers, brought to my presence.	神々、私の父達、を私の所へ連れてきてほしい
7 Let all the gods be brought,	すべての神々を連れて
8 Let them confer as they sit at table.	テーブルに着かせて論議させる
9 Let them eat grain, let them drink ale,	穀物を食べさせエールを飲ませ
10 Let them decree the destiny for Marduk their avenger.	仇を討つ Marduk に 運命を定めしむ
11 Go, be gone, Kaka, stand before them,	行け、去れ、Kaka よ、彼等の前に立ち
12 And repeat to them all that I tell you:	私の語ったことを繰り返して述べよ。
13 "Anšar, your son, has sent me,	Anšar、あなたの息子、が私を使者にした
14 And I am to explain his plans.	彼の計画を説明しましょう
15-52 = II, 11*-48 (* instead of 'My father,' put 'Thus,')	11*-48 (*'My father,' を' 'Thus,'に変更)
53 I sent Anu, but he could not face her.	Anu を差し向けたが彼女に対応できなかった
54 Nudimmud took fright and retired.	Nudimmud は驚いて退却した
55 Marduk, the sage of the gods, your son, has come forward,	Marduk、神の聖神、 あなたの息子が前に進み出、
56 He has determined to meet Tia-mat.	Tia-mat にまみえる決断をした
57 He has spoken to me and said,	私に語りかけて云った
58-64 = II, 156*-162 (* begin with quotation marks: "If)	II, 156*-162 (*: "If では始める)
65 Quickly, now, decree your destiny for him without delay,	今すぐ、遅滞なく、彼 (Marduk) のために あなた (Anšar) の運命を決めてください
66 That he may go and face your powerful enemy."	彼 (Marduk) が行って強力な敵に立ち向かうように
67 Kaka went. He directed his steps	Kaka は行き、向かいました
68 To Lah(mu and Lah(amu, the gods his fathers.	Lah(mu と Lah(amu、父神達の所へ

69 He prostrated himself, he kissed the ground before them,	彼は突っ伏せて 目の前の地にキスをした。
70 He got up, saying to them he stood,	彼は起き上がり、立って神々に語りかけた
71-124 = II, 13-66	124 = II, 13-66
125 When Lah(h(a and Lah(amu heard, they cried aloud.	Lah(mu と Lah(amu、が聞くと 神々は大声で叫んだ
126 All the Igigi moaned in distress,	すべての Igigi は深く呻吟していた
127 "What has gone wrong that she took this decision about us?	「何が悪かったのか
128 We did not know what Tia-mat was doing."	彼女（Tia-mat）が我々にこの決断を下した
129 All the great gods who decree destinies	我々は Tia-mat がやっていることを知らなかった
130 Gathered as they went,	運命を定めるすべての偉大な神々が 集まり行くと
131 They entered the presence of Anšar and became filled with [joy],	Anšar の処に入り、 （喜びに）満たされた
132 They kissed one another as they . [. .] in the assembly.	彼等は互いにキスし（挨拶し）、 議場に（）
133 They conferred as they sat at table,	テーブルについて論議をした
134 They ate grain, they drank ale.	穀物を口にシエールを飲み
135 They strained the sweet liquor through their straws,	ストローで 甘い酒を醸し出し、
136 As they drank beer and felt good,	ビールで酔い気分よくなると
137 They became quite carefree, their mood was merry,	気が大きくなり 楽しい雰囲気となった
138 And they decreed the fate for Marduk, their avenger.	仇を執ってくれると Marduk のために 運命を定めた。

碑文 IV

神々は台座を設け、マルドゥクを王とし、こん棒、王冠、錫杖を与え、全宇宙を統御する王権を与えることを **Be-I** に求め、マルドゥクはそれを得る。彼の言葉で、星座を消滅させ復活させる力が与えられた。

マルドゥクは、更に、弓矢、雷光、炎、四つの風を武器とした。悪意のある風をティアマトに吹き込み、これを呑み込もうとしたティアマトの腹に重くたまり込み大きく口が開いた。マルドゥクが口から腹へ矢を打ち込むと内臓を突き抜け内部が破裂しティアマトは死んだ。ティアマトに従った神々はちりぢりに逃げたが、マルドゥクは包囲して捕らえ、牢獄に繋いだ。

マルドゥクは、ティアマトの頭蓋骨を砕き、動脈を切断し、血を風に乗せてその勝利を知らしめた。ティアマトを二つに切り分け、片方を引き延ばして天空とし、皮膚を広げて、その上の水が漏れないように見張りを置いた。天空にアヌ、エンリル、エアの神殿を建て、住まわした。

<p><u>TABLET IV</u></p> <p>1 They set a lordly dais for him</p> <p>2 And he took his seat before his fathers to receive kingship.</p> <p>3 (They said,) "You are the most honoured among the great gods,</p> <p>4 Your destiny is unequalled, your command is like Anu's.</p> <p>5 Marduk, you are the most honoured among the great gods,</p> <p>6 Your destiny is unequalled, your command is like Anu's.</p> <p>7 Henceforth your order will not be annulled,</p> <p>8 It is in your power to exalt and abase.</p> <p>9 Your utterance is sure, your command cannot be rebelled against,</p> <p>10 None of the gods will transgress the line you draw.</p> <p>11 Shrines for all the gods needs provisioning,</p> <p>12 That you may be established where their sanctuaries are.</p> <p>13 You are Marduk, our avenger,</p> <p>14 We have given you kingship over the sum of the whole universe.</p> <p>15 Take your seat in the assembly, let your word be exalted,</p> <p>16 Let your weapons not miss the mark, but may they slay your enemies.</p> <p>17 Be-l, spare him who trusts in you,</p> <p>18 But destroy the god who set his mind on evil."</p> <p>19 They set a constellation in the middle</p> <p>20 And addressed Marduk, their son,</p> <p>21 "Your destiny, Be-l, is superior to that of all the gods,</p> <p>22 Command and bring about annihilation and re-creation.</p> <p>23 Let the constellation disappear at your utterance,</p> <p>24 With a second command let the constellation reappear."</p> <p>25 He gave the command and the constellation</p>	<p>神々は彼(Marduk)のために王の台座を設けた</p> <p>彼は父神達の前に座し</p> <p>王権を受けた</p> <p>(神々は云った)。「貴方は偉大な神々の中で最も栄誉あり</p> <p>貴方の運命は比類なく</p> <p>貴方の司令は Anu のごとし</p> <p>Marduk、貴方は偉大な神々のなか</p> <p>最も栄誉あり</p> <p>貴方の運命は比類なく</p> <p>貴方の司令は Anu のごとし</p> <p>これ以降、貴方の命令は無効となることはない</p> <p>昇格させるも降格させるも貴方の権限</p> <p>貴方の言葉は実行され、貴方の司令は拒否されることはない</p> <p>如何なる神々も貴方の敷く線を越えることはない</p> <p>すべての神々の神殿には準備が必要であり</p> <p>それらの聖域があるところに</p> <p>貴方が据えられねばならない</p> <p>貴方、Marduk、仇を伐つ者</p> <p>我等は貴方に王権を与えた</p> <p>全宇宙を統御する</p> <p>この集まりに座を占め(統率し)</p> <p>貴方の言葉を抜きん出たものとし</p> <p>貴方の武器が標的を逃すことなく</p> <p>敵を(失望させ)打ち砕くように</p> <p>Be-l、貴方を信じる彼を救い、</p> <p>彼の心に悪をなす神を滅ぼしたまえ」</p> <p>神々は紂王に一つの星座を置き</p> <p>Marduk、彼等の息子、に云った</p> <p>「貴方の運命、Be-l、は全ての神々に勝る</p> <p>命じて、消滅と</p> <p>再生をもたらせ。</p> <p>貴方の言葉で星座を消滅させ</p> <p>その次ぎの命令で</p> <p>星座を呼び戻せ</p> <p>彼が命令すると</p>
---	--

disappeared,	星座が消え
26 With a second command the constellation came into being again.	その次ぎの命令で 星座が再び現れた
27 When the gods, his fathers, saw (the effect of) his utterance,	神々、彼の父神達が 彼の言葉（の効果）を観た
28 They rejoiced and offered congratulation: "Marduk is the king!"	神々は喜び、祝った Marduk が王なり！と
29 They added to him a mace, a throne, and a rod,	神々は彼にこん棒、王冠、錫杖を与えた
30 They gave him an irresistible weapon that overwhelms the foe:	彼等は彼に反対者を凌駕する 抵抗できない武器を与えた
31 (They said,) "Go, cut Tia-mat's throat,	（彼等は云った）「行け、Tia-mat の喉を切れ
32 And let the winds bear up her blood to give the news."	彼女の血によく耐え、風に その知らせをもたらしめよ。
33 The gods, his fathers, decreed the destiny of Be-I,	神々、父神達は、Be-I の運命を定め
34 And set him on the road, the way of prosperity and success.	彼（Marduk）を反映と成功への 道に向けた
35 He fashioned a bow and made it his weapon,	彼は、弓を作りだし武器とした
36 He set an arrow in place, put the bow string on.	矢をつがえ、弓を引き絞った
37 He took up his club and held it in his right hand,	棍棒を採り上げ、右手に持った
38 His bow and quiver he hung at his side.	弓と矢筒を抱え
39 He placed lightning before him,	稲光を前にし
40 And filled his body with tongues of flame.	身体をメラメラとする炎で満たし
41 He made a net to enmesh the entrails of Tia-mat,	Tia-mat の内部を取り込むネットを作り
42 And stationed the four winds that no part of her escape.	四つの風を配置し、 彼女のどの部分ものがないようにした
43 The South Wind, the North Wind, the East Wind, the West Wind,	南風、北風 東風、西風
44 He put beside his net, winds given by his father, Anu.	ネットのそばに 父の Anu にもらった風を置いた
45 He fashioned the Evil Wind, the Dust Storm, Tempest,	邪悪な風、砂塵嵐、 暴風
46 The Four-fold Wind, the Seven-fold Wind, the Chaos-spreading Wind, the Wind.	四重の風、七重の風 混沌の拡散する風 . . . 風
47 He sent out the seven winds that he had fashioned,	彼は創りだした七つの風を送り出した
48 And they took their stand behind him to harass Tia-mat's entrails.	そして彼等は彼の後ろにつき、 Tia-mat の内部を繰り返し攻撃した
49 Be-I took up the Storm-flood, his great weapon,	Be-I は嵐の洪水、最大の武器をとりあげ
50 He rode the fearful chariot of the irresistible storm.	抗うことのできない嵐、恐ろしい戦車に乗り

51 Four steeds he yoked to it and harnessed them to it,	四頭の神馬を頸木に繋ぎ、 馬具を施した
52 The Destroyer, The Merciless, The Trampler, The Fleet.	破壊するもの、無慈悲なもの、侵害するもの その集団
53 Their lips were parted, their teeth bore venom,	それらの唇は裂け、歯は毒を含み
54 They were strangers to weariness, trained to sweep forward.	疲れを知らず、前を平らげるべく 訓練されていた
55 At his right hand he stationed raging battle and strife,	彼の右手には荒れ狂う戦いと 闘争が備わり
56 On the left, conflict that overwhelms a united battle array.	左手には団結した戦列を圧倒する 長期の戦闘が
57 He was clad in a tunic, a fearful coat of mail,	チュニック、恐ろしい鎖鎧を纏い
58 And on his head he wore an aura of terror.	頭には、恐怖のオーラを装着していた
59 Be-I proceeded and set out on his way,	Be-I は進み、そのやり方で始めた
60 He set his face toward the raging Tia-mat.	彼は荒れ狂う Tia-mat に顔を向け
61 In his lips he held a spell,	その唇に呪文を唱え
62 He grasped a plant to counter poison in his hand,	毒を無効にする草を手にした
63 Thereupon they milled around him, the gods milled around him,	そのうえで、神々は彼の回りを 動き回り
64 The gods, his fathers, milled around him, the gods milled around him.	神々、父神達は ぐるぐると動き回った
65 Be-I drew near, surveying the maw of Tia-mat,	Be-I は近づき、Tia-mat の開口を調べた
66 He observed the tricks of Qingu, her spouse.	彼は、Qingu、彼女の伴侶のトリックを観察した
67 As he looked, he lost his nerve,	見ると、怖じ気づいた
68 His determination went and he faltered.	彼の決断はどこへやらゆらぎ
69 His divine aides, who were marching at his side,	支援の神々は、彼（Marduk）のそばで進軍し
70 Saw the warrior, the foremost, and their vision became dim.	最高の戦士を見て 視界がぼやけてしまった
71 Tia-mat cast her spell without turning her neck,	Tia-mat は振り返ることなく呪文を唱えた
72 In her lips she held untruth and lies,	その唇に、虚実と嘘を保ち
73 "[.]	「[.]
74 In their [.] . they have assembled by you."	それらの[.]、それらはお前により集まった」と
75 Be-I [lifted up] the Storm-flood, his great weapon,	Be-I は、その偉大なる嵐の洪水を（手にし）
76 And with these words threw it at the raging Tia-mat,	こう言って荒れ狂う Tia-ma に投げつけた
77 "Why are you aggressive and arrogant,	「お前は何故攻撃的で傲慢なのか
78 And strive to provoke battle?	そして戦闘を起こそうとするのか
79 The younger generation have shouted, outraging their elders,	若い世代のものが叫び、 上の世代に怒る

80 But you, their mother, hold pity in contempt.	しかし、お前は、母であり、軽視し衰れんでいる
81 Qingu you have named to be your spouse,	Qingu 、お前はかれを伴侶と称してきた
82 And you have improperly appointed him to the rank of Anuship.	お前は、不適切にも Anuship の位に 彼 (Qingu) を指名した
83 Against Anšar, king of the gods, you have stirred up trouble,	お前は、神々の王 Anšar に対抗して トラブルを巻き起こした
84 And against the gods, my fathers, your trouble is established.	そして、私の父神達に、お前の トラブルが降りかかった
85 Deploy your troops, gird on your weapons,	お前の軍を配備し武器を身につけた
86 You and I will take our stand and do battle."	お前と私は立ち上がり、戦うことになる」と
87 When Tia-mat heard this	Tia-mat はこれを聞くと
88 She went insane and lost her reason.	彼女は狂気となり、理性を失った
89 Tia-mat cried aloud and fiercely,	Tia-mat は大声で叫んだ、猛々しく。
90 All her lower members trembled beneath her.	すべて彼女に付き従うものはその下で震えた
91 She was reciting an incantation, kept reciting her spell,	彼女は呪文を繰り返し、 呪文を唱え続けた
92 While the (battle-)gods were sharpening their weapons of war.	(戦闘) 神々が兵器を 研いでいる間
93 Tia-mat and Marduk, the sage of the gods, came together,	Tia-mat と Marduk 神々の賢者が顔を会わせ、
94 Joining in strife, drawing near to battle.	争いに加わり、戦闘に近づいた
95 Be-I spread out his net and enmeshed her;	Be-I はネットを広げ、彼女を捕らえた
96 He let loose the Evil Wind, the rear guard, in her face.	彼は後衛の悪意ある風を 彼女の顔に向けて解き放ち
97 Tia-mat opened her mouth to swallow it,	Tia-mat は口を広げ、呑み込もうとした
98 She let the Evil Wind in so that she could not close her lips.	彼女は悪意ある風を口に入れ 唇を閉じることができなくなった
99 The fierce winds weighed down her belly,	猛烈な風は腹に重くのしかかり
100 Her inwards were distended and she opened her mouth wide.	彼女の内部は膨張し 口が大きく広がった
101 He let fly an arrow and pierced her belly,	彼は矢を放ち、彼女の腹に穴を開けた
102 He tore open her entrails and slit her inwards,	彼女の内臓を切り開き、内部を切り裂いた
103 He bound her and extinguished her life,	彼女をひとかたまりにして命を奪った
104 He threw down her corpse and stood on it.	彼女の死体を投げ捨て、その上に立った
105 After he had killed Tia-mat, the leader,	リーダーの Tia-mat を殺したあとで
106 Her assembly dispersed, her host scattered.	彼女の集団は拡散し、ホストはちりぢりとなり、
107 Her divine aides, who went beside her,	支援の神々は、彼女に付き添っていたが
108 In trembling and fear beat a retreat.	震え、恐怖して退却を図った

109 to save their lives,	…その命を救うために
110 But they were completely surrounded, unable to escape.	しかし、彼等は完全に包囲されており 逃げる事が出来なかった
111 He bound them and broke their weapons,	彼は取り囲み彼等の武器を破壊した
112 And they lay enmeshed, sitting in a snare,	捕らえられ、罠の中に座し
113 Hiding in corners, filled with grief,	隅に隠れ、悲しみにくれて
114 Bearing his punishment, held in a prison.	罰を受け、牢獄に入れられ
115 The eleven creatures who were laden with fearfulness,	恐れに抑圧された
116 The throng of devils who went as grooms at her right hand,	11 の造物 彼女の右腕として育成された 悪魔の集団
117 He put ropes upon them and bound their arms,	彼はロープをかけ、彼等の腕を縛った
118 Together with their warfare he trampled them beneath him.	それらの戦いととも 彼等を踏み下した。
119 Now Qingu, who had risen to power among them,	今や神々の中で権力を握った Qingu、
120 He bound and reckoned with the Dead Gods.	彼(Marduk)は(Qingu)を縛り、死した神々を清算した
121 He took from him the Tablet of Destinies, which was not properly his,	Marduk は Qingu から、本来 Qingu のものではない運命のタブレットを取り上げ
122 Sealed it with a seal and fastened it to his own breast.	シールで封印し 自分の胸に結びつけた
123 After the warrior Marduk had bound and slain his enemies,	戦士 Marduk が敵を 捕縛し、殺すと、
124 Had the arrogant enemy . . . ,	傲慢な敵を…
125 Had established victory for Anšar over all his foes,	全ての敵に対する Anšar の勝利を成し遂げ
126 Had fulfilled the desire of Nudimmud,	Nudimmud の望みを叶えた
127 He strengthened his hold on the Bound Gods,	彼は拘束した神々への締め付けを強化し
128 And returned to Tia-mat, whom he had bound.	畳んだ Tia-mat の処に戻り（既に死んでいる）
129 Be-I placed his feet on the lower parts of Tia-mat	Be-I は Tia-mat の下部を踏みつけ
130 And with his merciless club smashed her skull.	無慈悲なり棍棒で頭蓋骨を打ち砕き
131 He severed her arteries	動脈を切断し
132 And let the North wind bear up (her blood) to give the news.	北風に（彼女の血を）載せて 知らせた
133 His fathers saw it and were glad and exulted;	彼の父神達はそれを見て、喜び、歓喜した
134 They brought gifts and presents to him.	贈り物を携えて彼に進呈した
135 Be-I rested, surveying the corpse,	Be-I は休息し、死体を調べた
136 In order to divide the lump by a clever scheme.	その塊を上手く分解するために
137 He split her into two like a dried fish:	彼は干物の魚のごとく二つに切り分けた
138 One half of her he set up and stretched out as the	彼女の片方を採り上げ

heavens.	空に引き延ばした
139 He stretched the skin and appointed a watch	彼はその皮膚を引き延ばし、見張りを指名し、
140 With the instruction not to let her waters escape.	彼女の水が漏れ出さないよう指示をして
141 He crossed over the heavens, surveyed the celestial parts,	彼は天空を渡り
142 And adjusted them to match the Apsû, Nudimmud's abode.	天空の各所を調べた
143 Be-I measured the shape of the Apsû	それらを調整し Apsû, や Nudimmud
144 And set up Ešarra, a replica of Ešgalla.	の住処としてふさわしいように
145 In Ešgalla, Ešarra which he had built, and the heavens,	Be-I は Apsû の形を測り
146 He settled in their shrines Anu, Enlil, and Ea.	Ešarra, Ešgalla (大宮殿) のレプリカを建て、 Ešgalla では、彼が建てた Ešarra 天空 彼はそれらの神殿 Anu, Enlil, Ea を住まわせた

碑文 V

そして、神々の位置（星座）を定めた。それぞれの月に 3 つの星群を設定し（上旬中旬下旬の説）、12 の月を定め、ネベル（木星）が宿る駅を定め、エンリルとエアの宿駅を定めた (MUL. AP IN の星座)。

天空の両サイドに門（東：日の出、西：日の入）を開け、左右（南北：ティアマトの腹）に天空を留め付けた。ナンナ（月神）を創り、夜を任せ、シャマシュ（太陽神）との関係で、王冠の満ち欠けで一月を定めた。解読不能であるが一年を定めたようである。

ティアマの唾液で雲を作り、頭を北方に置き、水に満たされた深淵を開き、目からチグリス川とユーフラテス川を流し出し、鼻の穴を塞いだ。乳房の乳首を高山とし、井戸を掘り、湧水がでるようにした。ティアマの尾ドゥマ（Durmah(u 大いなる結び目）に織込んだ（天地を結ぶ所説、当時の北極星説：紀元前 2,000 年代にはりゅう座 α 星（Thuban）が天の北極近くにあった）。マルドゥクはアプスを踏みつけ、彼の足の下を地下世界とした。彼女の股で天空を支え、彼女の残り半分を引き延ばして地表とした。天空と地表を結びつけ、すべてを点検して、あるべき規則を定め、キングの手にあった運命のタブレットを取り戻し、アヌに渡した。ティアマトが創り出した 11 の怪物を地下の門にはめ込み、勝利を宣言した。

天上天下の上級（Anunnaki）下級（Igigi）の神々が集められ、彼等はマルドゥクを王として臣従せしめられた。王のための神殿、Anunnaki や Igigi の住処が天空に定められ、マルドゥクが天空から降りて来る本拠地としてバビロンを創ることとなった。

<u>TABLET V</u>	
1 He fashioned heavenly stations for the great gods,	彼は偉大な神々のために天空に宿駅を作った
2 And set up constellations, the patterns of the stars.	星座、星の模様、を設定した
3 He appointed the year, marked off divisions,	彼は、年を定めるに、(天空の) 区域を限った
4 And set up three stars each for the twelve months.	それぞれに三つの星群を 12 の月に宛てた
5 After he had organized the year,	年を秩序つけると
6 He established the heavenly station of Ne-beru to fix the stars' intervals.	Ne-beru (木星、火星説) の宿駅を天空に設定し 星群の間隔を定めた

46 The watches of night and day [. . .	夜と昼の見張りは[. . .
47 The foam which Tia-mat [. . .	Tia-mat [. . .する泡唾
48 Marduk fashioned [. . .	Marduk は[. . .を作った
49 He gathered it together and made it into clouds.	彼はそれを一つに集めて、雲にした
50 The raging of the winds, violent rainstorms,	強烈な風、激しい雨嵐
51 The billowing of mist—the accumulation of her spittle—	霧が立ち込み、 彼女の唾液を集めたものだが
52 He appointed for himself and took them in his hand.	彼は自身のために揃え、それらを手にした
53 He put her head in position and poured out . . [. .] .	彼女(Tia-mat)の頭をその位置におき、…を注いだ
54 He opened the abyss and it was sated with water.	深淵を開き、そこは水で満たされていた
55 From her two eyes he let the Euphrates and Tigris flow,	彼女の二つの目から ユーフラテスとチグリスに流しださせた
56 He blocked her nostrils, but left . .	彼女の鼻の穴を塞ぎ、…を残した
57 H z (High-peaked mountains were made from her dugs)	H z(高山が彼女の多くの乳首から作られた)
58 He bored wells to channel the springs.	井戸を掘り、湧き水の通り道とした
59 He twisted her tail and wove it into the Durmah(u,	彼女の尾をひねり Durmah(u (ドゥマ) に織込んだ
60 [. . .] . . the Apsû beneath his feet.	[. . .] . .彼の足の下の Apsû (地下世界とした)
61 [He set up] her crotch—it wedged up the heavens—	彼女の股 (を以て) 天空を固定した
62 [(Thus) the half of her] he stretched out and made it firm as the earth.	(かくて彼女の半分で) 引き延ばして 地表のごとく固くした
63 [After] he had finished his work inside Tia-mat,	Tia-mat 内部の彼の作業を終えると
64 [He spread] his net and let it right out.	ネットを (広げ) (内部のものを) 外に放った
65 He surveyed the heavens and the earth . . [. .] .	彼は、天空と地表 . . [. .] を調査した
66 [. .] their bonds	[. .]それらの結合
67 After he had formulated his regulations and composed [his] decrees,	彼が規則を構成し 法令を書き上げると
68 He attached guide-ropes and put them in Ea's hands.	彼はガイドロープ (手引き) を付けて Ea に手渡した
69 [The Tablet] of Destinies which Qingu had taken and carried,	運命の[タブレット] Qingu が採り上げ携えていた。
70 He took charge of it as a trophy (?) and presented it to Anu.	彼はそれを戦利品? として管理しており Anu にプレゼントした。
71 [The . .] of battle, which he had tied on or had put on his head,	戦いの[The . .]、頭に括り付け かぶっていた
72 [. .] he brought before his fathers.	[. .] .彼は父神達の前に連れてきた
73 [Now] the eleven creatures to which Tia-mat had given birth and . . . ,	[今や] 11 の創造物 Tia-mat が生み出したもの
74 He broke their weapons and bound them (the	彼はそれらの武器を破壊し

creatures) to his feet.	彼等を足で踏みつけた
75 He made images of them and stationed them at the [Gate] of the Apsû,	彼はそれらの像を作り、 Apsû の[門]にはめ込み
76 To be a sign never to be forgotten.	決して忘れてはいけない印（しるし）とした
77 [The gods] saw it and were jubilantly happy,	[神々は]それを見て、喜びに沸いた
78 (That is,) Lah(mu, Lah(amu and all his fathers.	(それは) Lah(mu, Lah(amu そしてすべての父神達
79 Anšar [embraced] him and published abroad his title, "Victorious King,"	Anšar は彼を[抱きしめ] 「勝利した王」の称号を外に公表した
80 Anu, Enlil and Ea gave him gifts.	Anu, Enlil そして Ea 等が彼にギフトを与えた
81 Mother Damkina, who bore him, hailed him,	彼を生んだ母なる Damkina、が彼を褒めそやした、
82 With a clean festal robe she made his face shine.	祝祭のローブで、かれの顔を輝かせた
83 To Usmû, who held her present to give the news,	彼女の贈り物を携え知らせをもたらした Usmû に
84 [He entrusted] the vizierate of the Apsû and the care of the holy places.	彼は、Apsû の宰相職と 聖所の管理を[委ねた]
85 The Igigi assembled and all did obeisance to him,	Igigi 等が集まり彼に敬意を表した
86 Every one of the Anunnaki was kissing his feet.	Anunnaki のすべての神々も彼に敬意を表した
87 They all [gathered] to show their submission,	彼等はすべて[集まり]、臣従の意を表した
88 [. . .] . they stood, they bowed down, "Behold the king!"	[. . .]彼等は立ち上がり、ひれ伏し 「王を見よ」
89 His fathers [. . .] . and took their fill of his beauty,	彼の父神達[. . .]、そして彼の美しさを堪能した
90 Be-I listened to their utterance, being girded with the dust of battle.	Be-I は彼等の声を聞いた、 戦いの塵の中で
91 [.]	[.]
92 Anointing his body with [. . .] cedar perfume.	彼の身体を[. . .]杉香料で浄め
93 He clothed himself in [his] lordly robe,	彼は王侯ローブを纏い
94 With a crown of terror as a royal aura.	王のオーラとして恐怖の王冠を以て
95 He took up his club and held it in his right hand,	棍棒を取り上げ右手に持った
96 . . .] . he grasped in his left.	. . .] .を左で掴んだ
97 [.]	[.]
98 . . .] . he set his feet.	. . .] .彼は踏みだし
99 He put upon [. . .	こう述べた[. . .
100 The sceptre of prosperity and success [he hung] at his side.	繁栄と成功の杖を そばに[掲げて]
101 After [he had . . .] the aura [[. . . をした]後に、オーラ [
102 He adorned(?) his sack, the Apsû, with a fearful [. .]	彼は袋を飾り？、Apsû、 恐ろしい [. . .] を以て
103 Was settled like [. . .	[. . . のように定められた
104 In [his] throne room [. . .	[彼の] 王座の間では、

105 In his cella [. . .	彼の神殿内では [. .
106 Every one of the gods [. . .	神々の誰もが [. .
107 Lah(mu and Lah(amu . [.] .	Lah(mu と Lah(amu は聞き
108 Opened their mouths and [addressed] the Igigi	口を開けて、Igigi の神々
gods,	に [語った]
109 "Previously Marduk was our beloved son,	「これまで Marduk は我々の愛する息子であった
110 Now he is your king, heed his command!"	今や彼は皆の王、彼の命令に耳を傾ける」
111 Next, they all spoke up together,	続いて大声で共に語った
112 "His name is Lugaldimmerankia, trust in him!"	「彼の名は Lugaldimmerankia (天地の神々の王)、彼
113 When they had given kingship to Marduk,	を信じたまえ」。彼等 Marduk に王権を与えた、
114 They addressed to him a benediction for prosperity	彼等は彼に繁栄と成功の
and success,	祝福の言葉を述べた
115 "Henceforth you are the caretaker of our shrine,	「今後は貴方が我々の神殿の監理者、
116 Whatever you command, we will do!"	貴方の命ずることは如何なることも我々が行う」
117 Marduk opened his mouth to speak	Marduk は口を開け、語った
118 And addressed the gods his fathers,	父神達に述べた
119 "Above the Apsû, the emerald (?) abode,	「Apsû の上に、鮮やかな緑? の住処を
120 Opposite Ešarra, which I built for you,	Ešarra (天空の住処) の反対に、汝達のために造る
121 Beneath the celestial parts, whose floor I made	天空の下に、
firm,	床を固めて
122 I will build a house to be my luxurious abode.	我は邸宅を建て、豪華な住処とする
123 Within it I will establish its shrine,	その中に、神殿を造ろう
124 I will found my chamber and establish my kingship.	私の個室をつくり、王権を確立する
125 When you come up from the Apsû to make a	汝等が Apsû からやって来て
decision	判断を下すときに
126 This will be your resting place before the assembly.	総会に集る前の
assembly.	休憩所としよう
127 When you descend from heaven to make a	貴方が天空から下り
decision	決定を下すとき
128 This will be your resting place before the	これは貴方の休息の場、その前の
129 I shall call its name 'Babylon', "The Homes of the	我はそれを'Babylon'、
Great Gods",	「偉大な神々の本拠地」と名付ける
130 Within it we will hold a festival: that will be the	その中で、祭祀を行ない
evening festival.	夕餉のフェスティバルとする。
131 [The gods], his fathers, [heard] this speech of his,	[神々], 父神達は、彼のこの言葉を[聞き]
132 . [.] . they said,	[.] .彼等は云った
133 "With regard to all that your hands have made,	「貴方の手でなされたすべてに関して、
134 Who has your [. . .]?	誰が貴方の[. . .] ?

135 With regard to the earth that your hands have made,	貴方の手でなされた地表に関して
136 Who has your [. . .]?	誰が貴方の[. . .] ?
137 In Babylon, as you have named it,	貴方が名付けた Babylon では
138 Put our [resting place] for ever.	我らが[憩いの場]を永久に
139 . [.] let them our bring regular offerings	[.] それらに我々の常々の賜物をもたらし
140 . [.] . .	めよ[.] . .
141 Whoever [. . .] our tasks which we . [. . .	誰であれ[. . .]我々の仕事、我々が. [. . .
142 Therein [.] its toil . [. . .	そこで[.] その長き苦難. [. . .
143 [.]	[.]
144 They rejoiced [.] . . [. . .	彼等は [.] . . [. . . を歓喜した
145 The gods . [.]	神々は [.]
146 He who knows [.] . them	[.]を知る彼は. 彼等
147 He opened [his mouth showing] them light,	彼が[口を] 開き彼等に光を[照らす.]
148 . . [.] his speech . [.]	[.] 彼のスピーチ [.]
149 He made wide [.] . them [. . .	彼は[.]を広げ、彼等[. . .
150 And . [.]	そして[.] . . [. . .
151 The gods bowed down, speaking to him,	神々は平伏して、彼に語りかけた
152 They addressed Lugaldimmerankia, their lord,	彼等は Lugaldimmerankia (天地の神々の王)、主と述
153 "Formerly, lord, [you were our beloved] son,	べ、「以前には主、[貴方は我々に愛された] 息子
154 Now you are our king, . . [. . .]	今や、貴方は我等の王、[. . .]
155 He who . [.] . [.] preserved [us]	[.] . [.]の彼が、[我々を] 守った
156 . . [. . .] the aura of club and sceptre.	. . [. . .] 棍棒と杖（王権）のオーラ
157 Let him conceive plans [.] . . [. . .]	彼に計画 [.] . . [. . .] を抱かしめよ
158 [.] . . [. that] we . [. . . "	[.] . . [.] 我等 . [. . . "


碑文 VI、VII

マルドゥクは、そこで神々の労苦を肩代わりさせる **Lullû** (ルル、人) を作るろうとした。神々を二つに分け、休息させる神々とは別に罪ある神を「人」とすることにした。ティアマトに叛乱を薦め、戦いを引き起こしたものを神々に選び出さしめ、キングが指名された。

キングの血管を切断しその血で人を創った。神々の世界を上級と下級に分け、天空と地下世界にそれぞれ **300** の住処を割り当てた。神々はマルドゥクのために神殿を造り、バビロンとし、晚餐を開き、王座を設け、マルドゥクを王とし、その王権を確立した。

彼を唯一の神とし、**50** の名で称えた。

<u>TABLET VI</u>	
1 When Marduk heard the gods' speech	Marduk は神々のスピーチを聞き
2 He conceived a desire to accomplish clever things.	彼は賢明なる事々を成し遂げようと思った
3 He opened his mouth addressing Ea,	彼は口を開き、 Ea に述べた

4 He counsels that which he had pondered in his heart,	心に浮かんだことを勧めた
5 "I will bring together blood to form bone,	「血を集めて骨を造ろう
6 I will bring into being Lullû, whose name shall be 'man'.	Lullû,  (原人) とする その名は ‘人’
7 I will create Lullû—man	Lullû、人を創ろう
8 On whom the toil of the gods will be laid that they may rest.	神々の労苦を背負い込ませ 神々が休息できるように
9 I will skilfully alter the organization of the gods:	神々の秩序をうまくやりかえよう
10 Though they are honoured as one, they shall be divided into two."	神々は一様に崇められているが 神々は二つに分かたれよう
11 Ea answered, as he addressed a word to him,	Ea は応えた、一言云った
12 Expressing his comments on the resting of the gods,	神々の休息に関する コメントを述べて
13 "Let one brother of theirs be given up.	「神々の誰か兄弟のひとりにあきらめさせよう
14 Let him perish that people may be fashioned.	彼を滅ぼして人民を造らせるに
15 Let the great gods assemble	偉大な神々に集らせ
16 And let the guilty one be given up that they may be confirmed."	罪有るものにそれが確定されると あきらめさせよう」
17 Marduk assembled the great gods,	Marduk は偉大なる神々を集めた
18 Using gracious direction as he gave his order,	丁寧なる指示で命令をした
19 As he spoke the gods heeded him:	彼が話すと、神々は聞き入った
20 The king addressed a word to the Anunnaki,	王は Anunnaki に向けて発した
21 "Your former oath was true indeed,	「汝等の誓約が本当の事ならば
22 (Now also) tell me the solemn truth:	(今もまた) 吾に偽りなき真(まこと)を述べよ
23 Who is the one who instigated warfare,	戦いを引き起こしたのは誰なのか
24 Who made Tia-mat rebel, and set battle in motion?	Tia-mat に反抗をさせ、戦いを開始させたもの
25 Let him who instigated warfare be given up	戦いを開始させたものに断念させよう
26 That I may lay his punishment on him; but you sit and rest.	そのものを罰し 汝等を座して休ませよう」
27 The Igigi, the great gods, answered him,	Igigi、偉大な神々が応えた
28 That is, Lugaldimmerankia, the counsellor of the gods, the lord,	それは Lugaldimmerankia 神々の助言者、主、
29 "Qingu is the one who instigated warfare,	「Qingu が戦いを引き起こした
30 Who made Tia-mat rebel and set battle in motion."	Tia-mat に反抗をさせ、戦いを開始させた」
31 They bound him, holding him before Ea,	彼等は彼を拘束し Ea の前に立たせた
32 They inflicted the penalty on him and severed his blood-vessels.	彼等は彼に罰を科し、 彼の血管を切断した
33 From his blood he (Ea) created mankind,	彼の血から彼 (Ea) は人類を造り

34 On whom he imposed the service of the gods, and set the gods free.	それに彼は神々の仕事を課し 神々を自由にした
35 After the wise Ea had created mankind	賢明なる Ea は人類を造ったあとに
36 And had imposed the service of the gods upon them—	神々の仕事を 彼等に課した
37 That task is beyond comprehension	その業は理解を超えるもの
38 For Nudimmud performed the creation with the skill of Marduk—	Nudimmud が Marduk のスキルで 想像を行なったからである
39 King Marduk divided the gods,	Marduk 王は神々を分けた
40 All the Anunnaki into upper and lower groups.	全ての Anunnaki を上級と下級グループに
41 He assigned 300 in the heavens to guard the decrees of Anu	天空で 300 を割り当て Anu の令を守らせた
42 And appointed them as a guard.	そして彼等を護衛の指名した
43 Next he arranged the organization of the netherworld.	続いて地下世界の 組織を配した
44 In heaven and netherworld he stationed 600 gods.	天空と地下世界に 600 の神を配置した
45 After he had arranged all the decrees,	彼はすべての令を配すると
46 And had distributed incomes among the Anunnaki of heaven and netherworld,	天空と地下世界の Anunnaki に 年間の収入を配分した
47 The Anunnaki opened their mouths	Anunnaki 等は口を開き
48 And addressed their lord Marduk,	主 Marduk に述べた
49 "Now, lord, seeing you have established our freedom	「主よ、貴方が 我等の自由を打ち立てた
50 What favour can we do for you?	我等が一体如何なることを貴方になせようか？
51 Let us make a shrine of great renown:	我等に偉大なる神殿を造らせよ
52 Your chamber will be our resting place wherein we may repose.	貴方の部屋はわれらの休息の場所となり 我等が特別な処として保全します
53 Let us erect a shrine to house a pedestal	我等に王座を置く神殿を建てさせよ
54 Wherein we may repose when we finish (the work)."	(その仕事を) 終えれば、我等が保全しましょう」
55 When Marduk heard this,	Marduk はこれを聞くと
56 He beamed as brightly as the light of day,	彼は昼の日光の輝きを放った
57 "Build Babylon, the task you have sought.	「Babylon を建てよ、汝等が求めた
58 Let bricks for it be moulded, and raise the shrine!"	煉瓦をこしらえ、神殿を起せ」
59 The Anunnaki wielded the pick.	Anunnaki 等はつるはしを振るった
60 For one year they made the needed bricks.	一年で必要な煉瓦を作り
61 When the second year arrived,	二年目には
62 They raised the peak of Esagil, a replica of the Apsû.	Esagil 𒂗𒀭𒂗𒂊𒂗𒂗𒂗 (Marduk の神殿)、 Apsû のレプリカの頂を立ち上げた

63 They built the lofty temple tower of the Apsû	彼等は Apsû の小高い塔の神殿を建てた
64 And for Anu, Enlil, and Ea they established its . . as a dwelling.	Anu, Enlil, Ea の為に その..を住处として建てた
65 He sat in splendour before them,	彼は彼等の前に燦然として坐した
66 Suveying its horns, which were level with the base of Ešarra.	Ešarra (天空の住处) の基部のレベルにある 角 (塔) を見渡して
67 After they had completed the work on Esagil	彼等は Esagil での仕事を完成させると
68 All the Anunnaki constructed their own shrines.	すべての Anunnaki は彼等自身の住处を建てた
69 300 Igigi of heaven and 600 of the Apsû, all of them, had assembled.	300 の天空の Igigi と Apsû の 600、 すべてが集った
70 Be-I seated the gods, his fathers, at the banquet	Be-I は神々、父達を晩餐に座させた
71 In the lofty shrine which they had built for his dwelling,	彼の住处として彼等が建てた 小高い神殿に、(こう云って)
72 (Saying,) "This is Babylon, your fixed dwelling,	「これがバビロン、汝等の定住する住处、
73 Take your pleasure here! Sit down in joy!	それぞれ楽しみ、座して喜ばれよ
74 The great gods sat down,	偉大な神々が着席した
75 Beer-mugs were set out and they sat at the banquet.	ビール用マグが用意され 晩餐の席についた
76 After they had enjoyed themselves inside	彼等が内部で十分楽しむと
77 They held a service in awesome Esagil.	素晴らしい Esagil で礼拝をした
78 The regulations and all the rules were confirmed:	規制と規則が確認され
79 All the gods divided the stations of heaven and netherworld.	すべての神々は天空と 地下世界の棲み分けを行なった
80 The college of the Fifty great gods took their seats,	五十の偉大な神々の仲間が席を占め
81 The Seven gods of destinies were appointed to give decisions.	運命を司る七神が 指名された
82 Be-I received his weapon, the bow, and laid it before them:	Be-I は彼の武器、弓を受取り 彼等の前に置いた
83 His divine fathers saw the net which he had made.	彼の聖なる父神達は彼が造ったネットを見た
84 His fathers saw how skilfully wrought was the structure of the bow	父神達は弓が素晴らしく 仕上げられていることを見た
85 As they praised what he had made.	父神達が造作したものを称えると
86 Anu lifted it up in the divine assembly,	Anu は神聖なる会合でそれを掲げた
87 He kissed the bow, saying, "It is my daughter!"	彼は弓に口吻し言った、「私の娘である」と
88 Thus he called the names of the bow:	かく弓の名をつけた
89 "Long Stick" was the first; the second was, "May it hit the mark."	「長い杖」が最初で、 第二が「的に当るように」
90 With the third name, "Bow Star", he made it to shine	第三が「弓星」で

in the sky, 91 He fixed its heavenly position along with its divine brothers. 92 After Anu had decreed the destiny of the bow, 93 He set down a royal throne, a lofty one even for a god, 94 Anu set it there in the assembly of the gods. 95 The great gods assembled, 96 They exalted the destiny of Marduk and did obeisance. 97 They invoked a curse on themselves 98 And took an oath with water and oil, and put their hands to their throats. 99 They granted him the right to exercise kingship over the gods, 100 They confirmed him as lord of the gods of heaven and netherworld. 101 Anšar gave him his exalted name, Asalluh(i) 102 "At the mention of his name, let us show submission! 103 When he speaks, let the gods heed him, 104 Let his command be superior in upper and lower regions. 105 May the son, our avenger, be exalted, 106 Let his lordship be superior and himself without rival. 107 Let him shepherd the black-heads, his creatures, 108 Let them tell of his character to future days without forgetting. 109 Let him establish lavish food offerings for his fathers, 110 Let him provide for their maintenance and be caretaker of their sanctuaries, 111 Let him burn incense to rejoice their sanctums. 112 Let him do on earth the same as he has done in heaven: 113 Let him appoint the black-heads to worship him. 114 The subject humans should take note and call on	空に輝かせた 神聖な兄弟達とともに 天空に位置づけた Anu は弓の運命を定めたあとで 王座を設置した 神にとって高貴なものである Anu は神々の会合のなかにそれを設置し 偉大な神々が参集し 彼等は Marduk の運命を称え 服従し 自らに呪いをかけた 水と油を以て誓い 手を喉にあて 神々に対し王権を行使する権限を 彼に認めた 彼等は彼を天空及び地下世界の神々の 王であると確認した Anšar は彼に賛美する名称 Asalluh(i) を授けた 「彼の名を述べるに当り 服従を示そう 彼が話せば、神々に傾聴させよう 高い所、低い処に合っても 彼の命令は最上であり 息子、仇討ちを成し遂げた者として称賛され 彼の王権は最上であり 対抗する者はない 彼を、黒頭、彼の造物（人間）の羊飼いとし 彼等に彼（Marduk）の性格を 忘れること無く未来の日々に語らせよう 彼の父神に 潤沢な食物を提供させよう 父神の保全に要する物を準備させ 聖域の管理者としよう 香料を炊かせ、聖域を喜ばしくさせよう 天空において行なったように 地表でも行なわせよう 黒頭（人間）を指名し彼を称えせしめよう 臣下たる人間は留意し
--	---

<p>their gods,</p> <p>115 Since he commands they should heed their goddesses,</p> <p>116 Let food offerings be brought [for] (?) their gods and goddesses,</p> <p>117 May they (?) not be forgotten, may they remember their gods,</p> <p>118 May they . . . their . . . , may they . . . their shrines.</p> <p>119 Though the black-heads worship some one, some another god,</p> <p>120 He is the god of each and every one of us!</p> <p>121 Come, let us call the fifty names</p> <p>122 Of him whose character is resplendent, whose achievement is the same.</p> <p>123 (1) MARDUK</p> <p>As he was named by his father Anu from his birth,</p> <p>124 Who supplies pasturage and watering, making the stables flourish.</p> <p>125 Who bound the boastful with his weapon, the storm flood,</p> <p>126 And saved the gods, his fathers, from distress.</p> <p>127 He is the son, the sun-god of the gods, he is dazzling,</p> <p>128 Let them ever walk in his bright light.</p> <p>129 On the peoples that he created, the living beings,</p> <p>130 He imposed the service of the gods and they took rest.</p> <p>131 Creation and annihilation, forgiveness and exacting the penalty</p> <p>132 Occur at his command, so let them fix their eyes on him.</p> <p>133 (2) Marukka: he is the god who created them</p> <p>134 Who put the Anunnaki at ease, the Igigi at rest.</p> <p>135 (3) Marutukku: he is the support of land, city, and its peoples,</p> <p>136 Henceforth let the peoples ever heed him.</p> <p>137 (4) Meršakušu: fierce yet deliberating, angry yet relenting,</p>	<p>神々を求むべし</p> <p>彼 (Marduk) が女神々に 耳を傾けるようにしたのだから 食物を男神々、女神々の 提供せしめよう 彼等 (人間) に忘れさせず 神々を覚えているように 神々の神殿...ように 黒頭等がどの神か、 別の神を崇拝したとて 彼 (Marduk) が我等の唯一の神 さあ、五十の名を唱えよう 燦然と輝き、 その成業も輝く</p> <p>(1) MARDUK</p> <p>彼の父、Anu により生まれた時に名付けられた 牧場と水をもたらし 生育の場を豊かにし 高慢な者共を彼の武器、 嵐の洪水で拘束し 神々、父神達を困惑から救った 彼は息子、神々の中の太陽神 まばゆいばかり 彼等をその輝く光の中を歩ませる 彼が創り出した人民等、生き物に 神々に仕えることを課し 神々は休息をする 想像と破壊 許しと処罰 彼の命令で始まり 彼等の目を彼に引きつける</p> <p>(2) Marukka: 彼は彼等を創った神 Anunnaki に安楽を、Igigi に休息をもたらす</p> <p>(3) Marutukku: 彼は土地、都市 人民の守護者 これ以降人民等をして彼に耳を傾けしむ</p> <p>(4) Meršakušu: どう猛で思慮深く 怒るも心優しい</p>
--	---

<p>138 His mind is wide, his heart is all-embracing.</p> <p>139 (5) Lugaldimmerankia is the name by which we all called him,</p> <p>140 Whose command we have exalted above that of the gods his fathers.</p> <p>141 He is the lord of all the gods of heaven and netherworld,</p> <p>142 The king at whose injunctions the gods in upper and lower regions shudder.</p> <p>143 (6) Narilugaldimmerankia is the name we gave him, the mentor of every god,</p> <p>144 Who established our dwellings in heaven and netherworld in time of trouble,</p> <p>145 Who distributed the heavenly stations between Igigi and Anunnaki,</p> <p>146 Let the gods tremble at his name and quake on their seats.</p> <p>147 (7) Asalluh(i is the name by which his father Anu called him,</p> <p>148 He is the light of the gods, a mighty hero,</p> <p>149 Who, as his name says, is a protecting angel for god and land,</p> <p>150 Who by a terrible combat saved our dwelling in time of trouble.</p> <p>151 (8) Asalluh(i-Namtilla they called him secondly, the life-giving god,</p> <p>152 Who, in accordance with the form (of) his (name), restored all the ruined gods,</p> <p>153 The lord, who brought to life the dead gods by his pure incantation,</p> <p>154 Let us praise him as the destroyer of the crooked enemies.</p> <p>155 (9) Asalluh(i-Namru, as his name is called thirdly,</p> <p>156 The pure god, who cleanses our character."</p> <p>157 Anšar, Lah(mu, and Lah(amu (each) called him by three of his names,</p> <p>158 Then they addressed the gods, their sons,</p> <p>159 "We have each called him by three of his names,</p>	<p>寛大な思慮、心は全てを包み込む</p> <p>(5) Lugaldimmerankia ; 我らすべてが彼を呼ぶ名</p> <p>その命令は、父神達のものに抜きん出る</p> <p>彼は天空、地下世界のすべての神々の主</p> <p>その履行命令には上処、下処における神々が身震いする王</p> <p>(6) Narilugaldimmerankia 我々が彼に与えた名</p> <p>すべての神々の指導者</p> <p>困難な時に天空および地下世界に我らの住処を建て</p> <p>Igigi と Anunnaki の間に</p> <p>天空の宿駅を配置した</p> <p>神々を彼の名で震え上がらせ</p> <p>その席で揺すらせよう</p> <p>(7) Asalluh(は彼の父 Anu が彼を呼ぶ名</p> <p>彼は神々の光、力強いヒーロー</p> <p>彼の名が語るように、</p> <p>神と地を守るエンジェル</p> <p>壮絶な戦闘により</p> <p>困難な時に我等の住処を救った</p> <p>(8) Asalluh(i-Namtilla 彼等が二番目に唱える名</p> <p>命を与える神</p> <p>彼の（名）のならい</p> <p>滅ぼされた神々を復活させた</p> <p>主は、彼の純粋な呪文により</p> <p>死せる神々を生き返らせ、</p> <p>道に外れた敵を破滅させる者と</p> <p>我等をして彼を称えせしめる</p> <p>(9) Asalluh(i-Namru, 三番目に呼ばれる名</p> <p>純粋なる神、我等の性格を清浄にする」と。</p> <p>Anšar, Lah(mu, と Lah(amu (それぞれ)</p> <p>彼を三つの名で称した</p> <p>そして、彼等は、神々、息子達に云った</p> <p>「我等はそれぞれ彼を三つの名で称する</p>
---	--

<p>160 Now you call his names, like us." 161 The gods rejoiced as they heard their speech, 162 In Upšuuukkinaki they held a conference, 163 "Of the warrior son, our avenger, 164 Of the provisioner, let us extol the name." 165 They sat down in their assembly, summoning the destinies, 166 And with all due rites they called his name:</p> <p><u>TABLET VII</u></p> <p>1 (10)Asarre, the giver of arable land who established plough-land, 2 The creator of barley and flax, who made plant life grow. 3 (11)Asaralim, who is revered in the counsel chamber, whose counsel excels, 4 The gods heed it and grasp fear of him. 5 (12)Asaralimnunna, the noble, the light of the father, his begetter, 6 Who directs the decrees of Anu, Enlil, and Ea, that is Ninšiku. 7 He is their provisioner, who assigns their incomes, 8 Whose turban multiplies abundance for the land. 9 (13) Tutu is he, who accomplishes their renovation, 10 Let him purify their sanctuaries that they may repose. 11 Let him fashion an incantation that the gods may rest, 12 Though they rise up in fury, let them withdraw. 13 He is indeed exalted in the assembly of the gods, his [fathers], 14 No one among the gods can [equal] him. 15 (14) Tutu-Ziukkinna, the life of [his] host, 16 Who established, the pure heavens for the gods, 17 Who took charge of their courses, who appointed [their stations], 16 May he not be forgotten among mortals, but [let them remember] his deeds. 19 (15) Tutu-Ziku they called him thirdly, the establisher of purification,</p>	<p>お前達も、我等のようにかれを称えなさい」と。 神々は彼等の云うことを聞いて喜んだ Upšuuukkinaki において彼等は会合した 「戦士の息子、我等のアベンジャーについて 全ての提供者について、その名を称賛しよう」 彼等は着席し、 諸々の運命を呼び寄せた すべての儀式に彼の名を称した</p> <p>(10)Asarre, 耕作地を築いた 耕作地の提供者 大麦と亜麻の創造者 食物を育む (11)Asaralim 助言室で崇敬され、 その助言は優れている 神々はそれを聴き彼の恐れを掴む (12)Asaralimnunna, 高貴なる者、父の光、 彼を生んだ者 Anu, Enlil, Ea の命令を司る それは Ninšiku 彼は彼等に彼等の収入を準備する者 そのターバンが土地の豊かさを拡大する (13) Tutu は彼等の刷新を為し遂げる人物 彼に神々が安らげる聖域を純化させよう 彼に神々が安まる呪文を作らせよう 彼等が憤りに激昂しても、彼等を引き下がらせる 彼は実に神々、彼の（父神達）の 集会で抜きん出ており 神々の中で彼に（並ぶ者）はありません (14) Tutu-Ziukkinna [彼のホストの生命 神々のための純粋な天空を築き上げた 彼等の道筋を受け持ち、 [彼等の宿駅]を指定した 彼が死せる者達（人間）に忘れられないよう 彼の行ったことを[記憶させよう] (15) Tutu-Ziku、彼等は彼を3つ目に 浄化の形成者と呼んだ</p>
--	--

20 The god of the pleasant breeze, lord of success and obedience,	心地よきそよ風の神 成功と従順の主
21 Who produces bounty and wealth, who establishes abundance,	報償と富を創り出し 豊かさを形成する
22 Who turns everything scant that we have into profusion,	すべての乏しきものを 豊穰にに変える
23 Whose pleasant breeze we sniffed in time of terrible trouble,	その心地よきそよ風を 我等は手ひどい困難の時に嗅いだ
24 Let men command that his praises be constantly uttered, let them offer worship to him.	人間に命じて、彼への賛辞が常に発せられ 彼を崇敬を捧げしめよ
25 As (16) Tutu-Agaku, fourthly, let humans extol him,	(16) Tutu-Agaku, 四番目に、人類に賛美せしめよ
26 Lord of the pure incantation, who brought the dead back to life,	純粹なる呪文の主、 死者を生き返らせる
27 Who showed mercy on the Bound Gods,	捕縛された神々に慈悲を示した
28 Who threw the imposed yoke on the gods, his enemies,	神々、彼の敵に 罪のくびきを投げつけた
29 And to spare them created mankind.	創造された人類に代りをさせるために
30 The merciful, in whose power it is to restore to life,	慈悲深いこと、その力により生命を取り戻す
31 Let his words be sure and not forgotten	彼の言葉を確かとし忘れないように
32 From the mouths of the black-heads, his creatures.	黒頭（人間）、彼の創造物、の口において
33 As (17) Tutu-Tuku, fifthly, let their mouth give expression to his pure spell,	(17) Tutu-Tuku、五番目に、彼等の口をして 純粹な呪文を唱えさせよ
34 Who extirpated all the wicked by his pure incantation.	彼の純粹な呪文によりすべての邪悪を根絶した
35 (18) Šazu, who knew the heart of the gods, who saw the reins,	(18) Šazu 神々の心を知り、 その制御を見る
36 Who did not let an evil-doer escape from him,	邪悪なす者を彼から逃げることをできないように
37 Who established the assembly of the gods, who rejoiced their hearts,	神々の集会を起し、 彼等の心を喜ばせた
38 Who subjugated the disobedient, he is the gods' encompassing protection.	不柔順なるを従えさせ、 彼は神々全体を守護するもの
39 He made truth to prosper, he uprooted perverse speech,	彼は真実を増進させ、 不明瞭なスピーチを取り去った
40 He separated falsehood from truth.	彼は真実から偽りを取り除いた
41 As (19) Šazu-Zisi, secondly, let them continually praise him, the subduer of aggressors,	(19) Šazu-Zisi, 二番目に、絶えず彼等に 彼、攻撃者を従わせる者、を称賛せしめる
42 Who ousted consternation of from the bodies of the gods, his fathers.	父神達の身体にある不安困惑をその身体から 追い払った
43 (20) Šazu-Suh(rim, thirdly, who extirpated every foe	(20) Šazu-Suh(rim, 三番目に、彼の武器で

with his weapons,	全ての敵対者等を根絶した
44 Who confounded their plans and turned them into wind.	彼等の計画を閉じ込めて 風に変えてしまった
45 He snuffed out all the wicked who came against him,	彼は彼に向けられた全ての邪悪を吸い込んで
46 Let the gods ever shout acclamations in the assembly.	神々をして集会で 歓喜の叫びを上げしめる
47 (21) Šazu-Suh(gurim, fourthly, who established success for the gods, his fathers,	(21) Šazu-Suh(gurim 四番目に、 父神達に成功をもたらした
48 Who extirpated foes and destroyed their offspring,	敵対者等を根絶し、その子孫等も滅ぼした
49 Who scattered their achievements, leaving no part of them,	彼等の達成したものをバラバラにし 如何なるものも残さなかった
50 Let his name be spoken and proclaimed in the land.	彼の名を口に上らせ、地に公言せしめよう
51 As (22) Šazu-Zah(rim, fifthly, let future generations discuss him,	(22) Šazu-Zah(rim 五番目に、将来世代に 彼を討議させよう
52 The destroyer of every rebel, of all the disobedient,	あらゆる反抗、すべての不服従の破壊者
53 Who brought all the fugitive gods into the shrines,	逃亡するすべての神々を神殿に引き戻す
54 Let this name of his be established.	この名が確立されるように
55 As (23) Šazu-Zah(gurim, sixthly, let them altogether and everywhere worship him,	(23) Šazu-Zah(gurim 六番目に、彼等を一つにし、 いずこでも彼を崇敬せしめよ
56 Who himself destroyed all the foes in battle.	彼自身戦いに於いてすべての敵対者等を破壊した
57 (24) Enbilulu is he, the lord who supplies them abundantly,	(24) Enbilulu 𒂗𒅗𒂊𒅗𒂊 (灌溉神) は彼、彼等に 豊かさをもたらした主
58 Their great chosen one, who provides cereal offerings,	彼等に選ばれた偉大なる者、 穀物の賜物をもたらした
59 Who keeps pasturage and watering in good condition and established it for the land,	牧草地と給水を整え 土地にそれらを施した
60 Who opened watercourses and distributed plentiful water.	水路を開き、十分な水を 分配した
61 (25) Enbilulu-Epadun, lord of common land and . . . , let them [call him] secondly,	(25) Enbilulu-Epadun 共通の地と...の主、 彼等に、第二に、[かれを称せしめよ]
62 Canal supervisor of heaven and netherworld, who sets the furrow,	天空と地下世界の運河をもたらしたもの 溝を施して
Who establishes clean arable land in the open country,	広々とした土地に清浄な耕作地をもたらした
63 Who directs irrigation ditch and canal, and marks out the furrow.	灌溉水路や運河を監督し 溝を区切る
64 As (26) Enbilulu-Gugal, canal supervisor of the water courses of the gods, let them praise him thirdly,	(26) Enbilulu-Gugal 神々の水路、運河の管理者 彼等に彼を三番目に称賛させよう
65 Lord of abundance, profusion, and huge stores (of	(穀物の) 豊穰、大量、

grain),	巨大な蓄積
66 Who provides bounty, who enriches human habitations,	人間の住処を豊かにする
67 Who gives wheat, and brings grain into being.	賜物をもたらす
68 (27) Enbilulu-H(egal, who accumulates abundance for the peoples	小麦を与え、そして穀類を存在させる
69 Who rains down riches on the broad earth, and supplies abundant vegetation.	(27) Enbilulu-H(egal, 人々のために 豊穡を蓄積する
70 (28) Sirsir, who heaped up a mountain on top of Tia-mat,	豊かさを広く地に下ろし 豊富な野菜をもたらす
71 Who plundered the corpse of Tia-mat with [his] weapons,	(28) Sirsir, Tia-mat の上部に 山を積み上げた
72 The guardian of the land, their trustworthy shepherd,	Tia-mat の屍を
73 Whose hair is a growing crop, whose turban is a furrow,	[彼の] 武器で強奪した
74 Who kept crossing the broad Sea in his fury,	土地の守護者、彼等の信頼に足る羊飼いの
75 And kept crossing over the place of her battle as though it were a bridge.	その髪が生育する穀物、そのターバンが溝となる
76 (29) Sirsir-Malah(they named him secondly—so be it—	広い海を激怒して往来し続け
77 Tia-mat was his boat, he was her sailor.	彼女 (Tia-mat) の戦いの場を融合し続け
78 (30) Gil, who ever heaps up piles of barley, massive mounds,	まるで橋を架けるかのごときであった
79 The creator of grain and flocks, who gives seed for the land.	(29) Sirsir-Malah(彼等は彼を二番目に名付け、 そうになった。
80 (31) Gilima, who made the bond of the gods firm, who created stability,	Tia-mat は彼の船で、彼は彼女の船員だった
81 A snare that overwhelmed them, who yet extended favours.	(30) Gil, 大麦の束を積み重ね 巨大に盛りあげる
82 (32) Agilima, the lofty, who snatches off the crown, who takes charge of snow,	穀物と群生の創造者
83 Who created the earth on the water and made firm the height of heaven.	土地に種子を与える
84 (33) Zulum, who assigns meadows for the gods and divides up what he has created,	(31) Gilima 神々の絆を固め、 安定をもたらす
85 Who gives incomes and food-offerings, who administers shrines.	彼等を圧倒する捕獲者
86 (34) Mummu, creator of heaven and underworld, who	ただ、恩恵も差し伸べる
	(32) Agilima 高貴なる者、王冠を剥ぎ取る、 雪を管理する
	地に水を創り出し、 天空の高さを固定する
	(33) Zulum 神々に牧草地を割り当て 彼が創り出した物を分かち
	収益と食物提供を与え 神殿を管理させる
	(34) Mummu 天空と地下世界の創造者

protects refugees,	避難者を保護する
87 The god who purifies heaven and underworld,	天と天下を浄化する
secondly Zulummu,	二番目に、Zulummu
88 In respect of whose strength none other among the	その強さにおいて、神々のいずれも
gods can equal him.	彼に匹敵することができない
89 (35) Gišnumunab, creator of all the peoples, who	(35) Gišnumunab すべての人々の創造者
made the world regions,	世界を地域分けする
90 Who destroyed Tia-mat's gods, and made peoples	Tia-mat の神々を破壊し
from part of them.	それ等の部分から人々を造った
91 (36) Lugalabdubur, the king who scattered the works	(36) Lugalabdubur Tia-mat の仕事をバラバラに
of Tia-mat, who uprooted her weapons,	した王、彼女の武器を完全に破壊した
92 Whose foundation is secure on the "Fore and Aft".	その基盤は「前も後ろも」しっかりしている
93 (37) Pagalguenna, foremost of all lords, whose	(37) Pagalguenna, すべての主の最上であり
strength is exalted,	その力は抜きん出ている
94 Who is the greatest among the gods, his brothers, the	兄弟神々に抜きん出る
most noble of them all.	彼等すべての中で最も高貴である
95 (38) Lugaldurmah(, king of the bond of the gods, lord	(38) Lugaldurmah(神々の絆の王
of Durmah(u,	Durmah(u (V-59) の主
96 Who is the greatest in the royal abode, infinitely more	王宮内で一番偉大で
lofty than the other gods.	他の神々より格別に高貴である
97 (39) Aranunna, counsellor of Ea, creator of the gods,	(39) Aranunna, 神々、父神の創造者
his fathers,	Ea の助言者
98 Whom no god can equal in respect of his lordly walk.	かれの王者風歩行に匹敵する神はない
99 (40) Dumuduku, who renews for himself his pure	(40) Dumuduku, Duku におけるかれの純粋な住処
abode in Duku,	自身のために新しくする
100 Dumuduku, without whom Lugalduku does not	Dumuduku,、それなくしては
make a decision.	Lugalduku は決断できない
101 (41) Lugalšuanu, the king whose strength is	(41) Lugalšuanu 王、その強さは
exalted among the gods,	神々に秀でている
102 The lord, the strength of Anu, he who is supreme,	主、Anu の強さ、最上であり、
chosen of Anšar.	Anšar に選ばれた
103 (42) Irugga, who plundered them all in the Sea,	(42) Irugga それらすべてを海で略奪した
104 Who grasps all wisdom, is comprehensive in	全ての知恵を的確にとらえ、
understanding.	包括的に理解する
105 (43) Irqingu, who plundered Qingu in . . . battle,	(43) Irqingu . . .に戦いで Qingu を略奪した
106 Who directs all decrees and establishes lordship.	すべての法令を下し、至上権を確立する
107 (44) Kinma, the director of all the gods, who gives	(44) Kinma すべての神々の指導者
counsel,	助言を与える

108 At whose name the gods bend down in reverence as before a hurricane.	その名には神々は 嵐の前のごとく畏敬する
109 (45) Dingir-Esiskur—let him take his lofty seat in the House of Benediction,	(45) Dingir-Esiskur 彼に「祝福の家」に 高貴な席をとらせよう
110 Let the gods bring their presents before him	彼の前に神々に贈物をもたらさせよう
111 Until he receives their offerings.	彼が彼等の贈物を受けるまでに
112 No one but he accomplishes clever things	彼以外に賢明なることを為し遂げることはない
113 The four (regions) of black-heads are his creation,	黒頭（人間）の四（地域）は彼の造ったもの
114 Apart from him no god knows the measure of their days.	彼を除いては、いかなる神も 人間の日々を計測することはない
115 (46) Girru, who makes weapons hard (?),	(46) Girru 武器を厳しい（？）ものとする
116 Who accomplished clever things in the battle with Tia-mat,	Tia-mat,との戦いにおいて 賢明なることを為し遂げた
117 Comprehensive in wisdom, skilled in understanding,	知恵に明るく、理解に熟達し
118 A deep mind, that all the gods combined do not understand.	深い心、すべての神々を 束ねても理解しない
119 Let (47) Addu be his name, let him cover the whole span of heaven,	(47) Addu を彼の名とし、 天の全域を覆わせよう
120 Let him thunder with his pleasant voice upon the earth,	彼の楽しい声で 地に轟かせよう
121 May the rumble fill (?) <u>the clouds</u> And give sustenance to the peoples below.	その轟きが雲に充ちる（？）ように 下界の人々に糧を与えよ
122 (48) Aša-ru, who, as his name says, mustered the Divine Fates	(48) Aša-ru 彼の名が語るごとく、 神聖なる運命を習熟した
123 He indeed is the warden of absolutely all peoples.	彼は、実に、全ての人々の絶対的な師
124 As (49) Ne-beru let him hold the crossing place of heaven and underworld,	(49) Ne-beru 彼に天空と地下世界の 交わる場所を担当させよう
125 They should not cross above or below, but should wait for him.	上にも下にも行くには 彼を待たねばならない
126 Ne-beru is his star, which he caused to shine in the sky,	Ne-beru はかれの星、 彼が空で輝く所以
127 Let him take his stand on the heavenly staircase that they may look at him.	天空への回廊に立たせ 彼を見る事になる
128 Yes, he who constantly crosses the Sea without resting,	そのとおり、彼はいつだって 海を渡り休むことがない
129 Let his name be Ne-beru, who grasps her middle,	彼の名を Ne-beru としよう、彼女の真ん中をつかむ
130 Let him fix the paths of the stars of heaven,	彼に天空の星の道を定めさせよう
131 Let him shepherd all the gods like sheep,	彼に全ての神々を羊のように導かせよう

<p>132 Let him bind Tia-mat and put her life in mortal danger,</p> <p>133 To generations yet unborn, to distant future days,</p> <p>134 May he continue unchecked, may he persist into eternity.</p> <p>135 Since he created the heavens and fashioned the earth,</p> <p>136 Enlil, the father, called him by his own name, (50) 'Lord of the Lands'.</p> <p>137 Ea heard the names which all the Igigi called</p> <p>138 And his spirit became radiant.</p> <p>139 "Why! He whose name was extolled by his fathers</p> <p>140 Let him, like me, be called (51) 'Ea'.</p> <p>141 Let him control the sum of all my rites,</p> <p>142 Let him administer all my decrees."</p> <p>143 With the word "Fifty" the great gods</p> <p>144 Called his fifty names and assigned him an outstanding position.</p> <p>145 They should be remembered; a leading figure should expound them,</p> <p>146 The wise and learned should confer about them,</p> <p>147 A father should repeat them and teach them to his son,</p> <p>148 One should explain them to shepherd and herdsman.</p> <p>149 If one is not negligent to Marduk, the Enlil of the gods,</p> <p>150 May one's land flourish, and oneself prosper,</p> <p>151 (For) his word is reliable, his command unchanged,</p> <p>152 No god can alter the utterance of his mouth.</p> <p>153 When he looks in fury, he does not relent,</p> <p>154 When his anger is ablaze, no god can face him.</p> <p>155 His mind is deep, his spirit is all-embracing,</p> <p>156 Before whom sin and transgression are sought out.</p> <p>157 Instruction which a leading figure repeated before him (Marduk):</p> <p>158 He wrote it down and stored it so that generations to come might hear it.</p>	<p>Tia-mat をがんじがらめにさせ 命を危険にさらさせよう</p> <p>未だ生れない世代、遠くの未来の日々のために 彼は止められることなく 永遠に続けられるように</p> <p>彼が天空を創造し 地を形作って以来</p> <p>Enlil、父、が彼を彼自身の名 (50)「土地の王」と名付けた</p> <p>Ea はそれぞれの名を聞き、すべての Igigi が呼ぶ 彼の精神は光を放ち</p> <p>「何故、その名が父神達から熱烈に迎えられたか 彼に、私同様、(51) 'Ea'. と呼ばれるようにされ すべての儀式をまとめて統御させよう 私のすべての命令を監督させよう」</p> <p>偉大な神々 "50" という言葉で 彼の 50 の名を称し 格別の地位を割り当てた</p> <p>それらは記憶されるべきで、 指導者がそれらを詳しく説明すべきである 賢者と学者がそれらについて協議すべきである ある父がそれらを繰り返す 息子に教えるべきである ある者がそれらを 羊飼いと牧夫に説明すべきである</p> <p>神々の Enlil たる Marduk, を無視することなくば その土地は栄え、その者は繁栄しよう (何故なら)彼の言葉は確かで、彼の指令は不変 いかなる神もかれの口の発することに代えがたく 彼が憤怒すとみれば、鎮まることはない 怒りが燃え立てば、いかな神も顔を向けられない かれの心は深く、かれの精神はすべてを包み込む その前で、罪と法令違反が探り出され 彼 (Marduk) の前に 指導者が繰り返す指示 彼がそれを記し、保管し来たるべき 世代がそれを訊けるようにと</p>
---	--

159 [. .] . Marduk, who created the Igigi gods, 160 Though they diminish . . . let them call on his name. 161 . . . the song of Marduk, 162 Who defeated Tia-mat and took kingship	[. .] . Marduk Igigi 神々を創造した 彼等が減びようと...彼の名を称え ... Marduk の歌 Tia-mat を撃ち破り、王権を手にした
---	---

「エヌマ・エリシュ」の宇宙論 [HP](#) 静岡大学人文学部 <https://cir.nii.ac.jp/crid/1390572174756277376>

バビロニア創造神話 Enuma Eliš-1, [HP](#) -2, [HP](#) 大阪外国語大学

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/80558/joufs_34_059.pdf

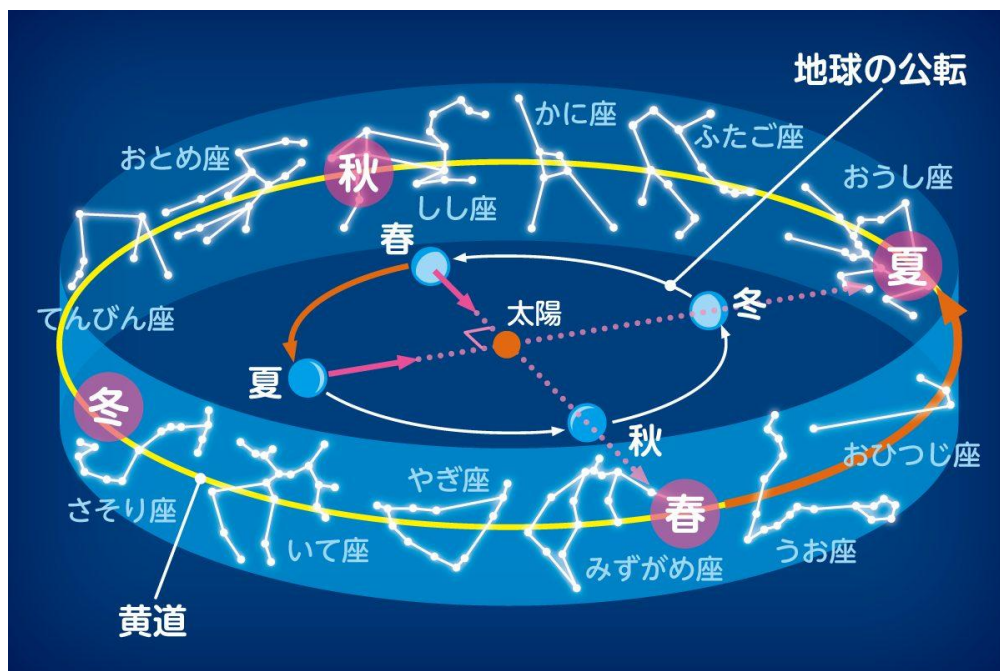
https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/80590/jjoufs_37_001.pdf

	<p>Enuma Elish References to Depiction of the Cosmos BIBLE BRISKET(HP) https://biblebrisket.com/enuma-elish-references-to-depiction-of-the-cosmos/</p> <p>1; Half of Tiamat was made as a cover, heaven/sky, to hold back the waters (4.138).</p> <p>2; Esharra, “House of the Universe” (the abode of Enlil) (4.144).</p> <p>3; The stars, assigning three stars to each month (5.2).</p> <p>4; The star Neberu to mark the stars’ relationships. There is debate as to whether it is Jupiter or Mercury (5.6).</p> <p>5; The moon, assigned to mark the day of the month (5.12). When the sun faces it from the horizon, it is commanded to wane (5.19).</p>
<p>6; Clouds, made from the foam of Tiamat (5.49).</p> <p>7; The underground springs were opened, allowing for a flood to flow (5.54).</p> <p>8; From Tiamat’s eyes the Euphrates and Tigris rivers were created (5.55).</p> <p>9; High-peaked mountains were made from her dugs (5.57).</p> <p>10; Marduk coiled up Tiamat’s tail and tied it as “The Great Bond” – the link that holds heaven and the world below together (5.59).</p> <p>11; Her crotch was set as the brace of heaven (5.61).</p> <p>12; Earth was established with half of her cover (5.62).</p> <p>13; The netherworld was formed (5.65).</p>	

14; Marduk creates Babylon, "Houses of the great gods", as the terrestrial counterpart to Esharra. It is the center of the universe, above Apsu (water below the earth) and below heaven (5.120).

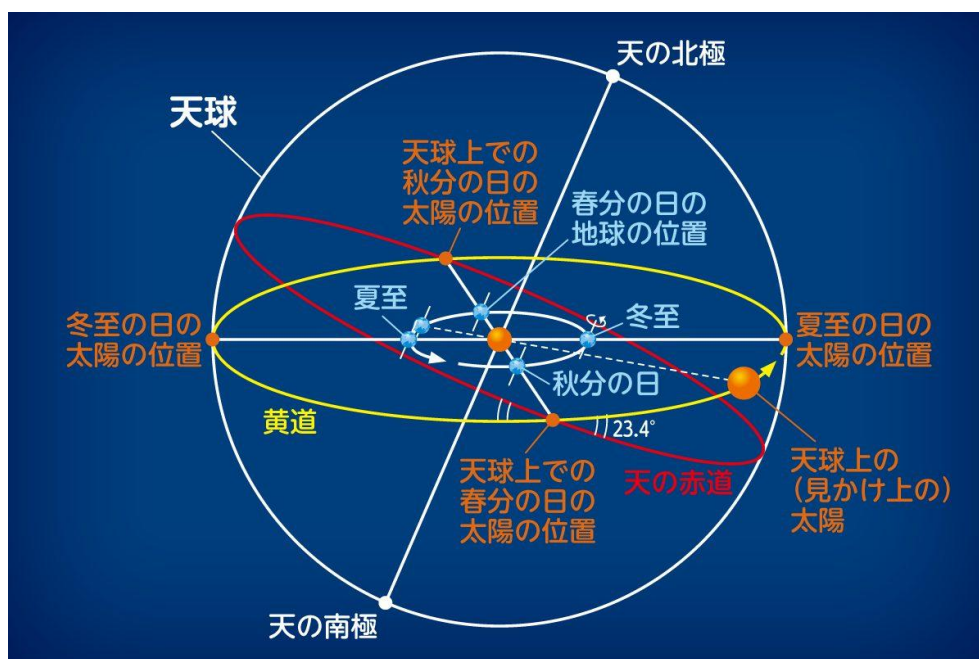
15; He has the Anunna-gods make him a shrine (Esagila), his temple in Babylon – with its pinnacles facing toward the base of Esharra (6.51).

16; He causes rainfall to make vegetation flourish (5.50; 7.69).



黄道帯に分布する星座。季節によって太陽と同じ方向にある星座が変わる。

HaguKumu (小学館 <https://hugkum.sho.jp/471153>)



二至二分を、天球との関係で表すと上図のようになる。